

## 大場氏収集資料Ⅰ（主に磯部長恒関係）

受入番号	表題(内容)	年月日	西暦	作成(著者)	宛先(発行所)	形状	員数	摘要
1	口伸(昨夕帰着の挨拶状)	9月10日	—	左仲	う右衛門様	状	1	
2	(内金15両の送付と、しばらく荷の積方をひかえてほしいとの書状)	(巳)12月14日	—	茗荷屋 善五郎・伝七・忠蔵	松島屋宇右衛門様	状	1	当地流行は甘口で貴地製造品とは異なるため。端裏「巳十二月廿四日着、同廿五日返書旁請書書十日切出ス」
3	(御目見首尾よく済むことの祝い状)	4月16日	—	儉斎	松所大人	状	1	文久2年?
4	(依頼品の追加金として2両送金すること、羽織地の間違いのこと、旦那様改名の祝いなどにつき書状)	12月15日	—	三人	惣吉殿	状	1	
5	雑用御答(参宮のようす、師の近況などにつき書状)	3月11日	—	岡田十蔵	磯部宇右衛門様	状	1	参宮者が少なく御師は寂しいが、師宅はにぎわっている。『和名抄捷見』編纂、長胤著『猶軒小録』についてなど
6	証(8円の借金証文。返済したため全体に抹消線引き)	明治25年2月7日	1892	河曲郡神戸町大字新町 磯部宇右衛門(印)	三重郡四日市町大字浜田小沢喜兵衛殿	状	1	
7	(極三盆白砂糖の注文書)	7月3日	—	松島屋 宇右衛門	四日市 市屋武右衛門様	状	1	青紙
8	(買取代金額、白砂糖につき書状)	—	—	—	—	状	1	
9	覚(筆立・皿山記などの代金覚)	卯7月	—	本や彦七	磯部宇右衛門様	状	1	もとは4通一括
10	覚(五山堂詩話など代金覚)	卯7月5日	—	山形屋 伝右衛門	磯部宇右衛門様	状	1	
11	覚(状袋・短冊・実語教などの代金覚)	卯7月	—	篠田伊右衛門(印「勢州津」)	磯部宇右衛門様	状	1	
12	(注文の『青記早草』代金につき書状)	10月28日	—	山形屋 伝右工門	磯部宇右衛門様	状	1	
13	口上(金100疋借用の依頼状)	22日	—	—	—	状	1	
14	(先代養子の出処などにつき書状)	4月7日	—	丹羽元厚	磯部卯右衛門様	状	1	
15	(結納品数を1品増やすにつき目録書替え依頼状)	12月6日	—	正伯	磯部卯右衛門様	状	1	
16	(黒沢庄兵衛・惣吉が帰勢し、絵・金巾に関する伝言を伝える書状)	—	—	—	—	状	1	
17-1	(東屋まくり・長堅かけ物・東所かけ物の価などにつき書状)	師走念3日	—	菰市屋	宇右衛門様	状	1	
17-2	覚(衣仕立代の受取書)	卯11月	—	松しま屋 宇右衛門	丁 おみき殿	状	1	
18	(本居翁の軸返却の受取、自分の体調などにつき書状)	8月6日	—	小津忠三郎	磯部宇右衛門様	状	1	「神戸 磯部宇右衛門様 自松坂 小津忠三郎」と書いた封筒入り
19	(お高様と後藤氏の婚儀などにつき書状)	8月25日	—	小津忠三郎	磯部宇右衛門様	状	1	「神戸新町 磯部宇右衛門様 自松坂 小津忠三郎」と書いた封筒入り

20	(60匁証書提出、利子などにつき書状)	3月11日	—	伊藤清兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
21	(鳥井記録をまとめたので一覧を願う書状)	9月20日	—	磯部宇右衛門	鈴木長門守様	状	1	水仙・菊を摺った料紙
22	(予楽院様御手本などにつき礼状)	8月17日	—	いとう	磯部様	状	1	
23	(鈴舎翁の真跡2枚・本末の歌1軸などの礼状)	卯月28日	—	平垣権之進	磯長恒大人	状	1	端裏「五月卅日着大雲手紙、急々返書可遣事」
24	(公事根源集釈・道中記ほか永く借用の詫び状)	6月4日	—	—	—	状	1	
25	(菅家後集・此名草など書物の借用・返却につき書状)	9月15日	—	古山	宇右衛門様	状	1	
26	(小集開催につき光来を願う書状)	9月14日	—	浅田才兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	句会らしい
27	(絵封筒)	—	—	磯部宇右衛門	鈴木長門守様	他	1	(205の包紙か?)
28	(急な依頼に早速認めてくれたことへの礼状)	卯月7日	—	松暁院	伊曾部大人	状	1	絵摺の料紙
29	(暑中見舞と奉公中の利助に関する礼状)	6月16日	—	松島屋 宇右衛門	高 治郎右衛門様	状	1	
30	仕切覚	参月12日	—	いかや 尊造(印「大坂」)	松島屋卯右衛門様	状	1	
31	(信楽開催の会のための愚詠添削の依頼状)	11月25日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	包紙入り
32	(入金のお知らせ)	10月6日	—	岸田 伊介	磯部宇右衛門様	状	1	
33	内用呈覧(養子の心当たりについて)	29日	—	—	—	状	1	
34	(過日の御馳走の礼状)	6月21日	—	館正舗	磯部宇右衛門様	状	1	
35	(出産祝・普請見舞の返礼として蒸し物の送り状)	—	—	—	—	状	1	
36	(御直し物の届けと注文品延引の詫び状)	6月19日	—	藤七恵	磯部良助様	状	1	
37	(返却残金1両と利息のうち1分の送り状)	10月26日	—	—	—	状	1	「背もたらず知恵もたらねと…」の狂歌入り
38	(坂下勤番中に通行した軍勢、各地の戦況につき書状。菊桐紋の旗も通過している)	(慶応4)閏4月3日	1868	山元十蔵	磯部久右衛門様	状	1	
39	(宮中詰役人の食事準備等につき書状)	9月13日	—	磯部宇右衛門	鈴木長門守様	状	1	
40	(改革で打切りのこと、本月中に16円は送金の依頼状)	4月24日	—	天矢九十郎	磯辺宇右衛門様、磯辺久助様	状	1	
41	(百合図の絵封筒)	3月20日	—	玉田重兵衛	磯部宇右衛門様		1	

42	(御祝に鯛に替えて朱肉の送り状。狂歌入り)	10月23日	—	長恒	鈴木様	状	1	松に鶴図の絵封筒入り
43	(方位考借用の礼状)	3月朔日	—	磯部宇右衛門	鈴木長門亮様	状	1	破損多い
44	(拙筆の本を呈上、結構の品の礼状)	5月29日	—	長恒	鈴木雅君	状	1	
45	(御講尺に行けない断りと鮮魚の送り状)	3月12日	—	磯部宇右衛門	鈴木長門守様	状	1	
46	名乗并判形之事(包紙)	—	—	磯部長恒	嫡孫磯部孝太郎	他	1	長恒考案の実名と印面が入っていたはず
47	(差直しの御切手の値段変更について書状)	4月8日	—	江戸屋市兵衛	松島屋宇右衛門様	状	1	
48	(息子引取りにあたっての重之内、膳料の送り状)	6日	—	泰可	宇右衛門様	状	1	
49	(嘉永講振鬮について返答状)	10月13日	—	小川幸左衛門、村瀬伝兵衛	磯部宇右衛門様、平井七郎兵衛様	状	1	難渋の次第がありこれまで通りと理解してほしい
50	(茶山詩集の感、日本人作品借用の依頼などにつき書状)	霜月11日	—	畠山	磯部宇右衛門様	状	1	
51	覚(かの山の宇藤儀作あて封金の受取書)	亥3月20日	—	越前屋平兵衛(印「勢州神戸飛脚所	磯部宇右衛門様	状	1	
52	(武兵衛後妻を迎えるにつき酒飯への招待状)	27日	—	泰可	宇右衛門様	状	1	封筒入り
53	(法帖・短冊帖・打袋を試みに見せるにつき書状)	11月22日	—	荃為清口??	磯部宇右衛門様	状	1	
54	(80歳の祝詠の礼状と返歌の送り状)	5月22日	—	辻村維周	長恒君、正儀君、度蔭君	状	1	
55	(韻鏡取り寄せの礼と、全部揃いで入手したいとの依頼状)	4月仏生日	—	天沢山口口(破損)	磯部氏様	状	1	
56	(竹坡の帖の送り状)	正月2日	—	小谷(?)三治	磯部宇右衛門様	状	1	
57	(依頼品の礼と清書した弟子たちへの礼品送り状)	12月26日	—	小谷(?)三治	磯部宇右衛門様	状	1	
58	(口入した金子が期日後も音沙汰がないため尋ね状)	9日夕	—	利右衛門	田八郎様	状	1	
59	天保二卯正月 宮御造営御木曳(日程)	(天保2年)	1831	—	—	状	1	12日~15日の4日間
60	(くれぐれも養生専一を願う書状)	14日	—	泰可	磯部宇右衛門様	状	1	封筒入り
61	(親類人数が別紙のように増えるとの通知)	10月15日	—	松野惣兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
62	(縁組の御祝と心配や苦勞の報告など)	臘月4日	—	菰市	卯公様	状	1	

63	(「誠忠石橋」の撤去につき書状)	16日	—	泰可	磯部様	状	1	庭にある石橋らしい
64	(紀元節奉賀式の案内)	明治24年2月10日	1891	神戸尋常小学校訓導 宝田象太郎	磯部宇右衛門殿	状	1	
65	(拝借金の半金を返済の積りにつき書状)	8月26日	—	—	—	状	1	
66	覚(象嵌細工の代金覚)	10月	—	津白銀師 万蔵(印)	古鉄屋 甚七様	状	1	肥後風象眼(三ツ松ト菊水紋)
67	(縫物師紹介の礼、尊母の怪我見舞、養子の件、高田三尊仏開帳、江戸役人の入り込みなどにつき書状)	8月12日	—	伊藤清兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
68	(郷札。入札用か。53番まで)	—	—	印「町会所」	—	他	46	欠番 1, 2, 39, 49, 50~52
69	(図の通り仰せなられたとの通知)	8月24日	—	畠山良右衛門	町年寄中	状	1	
70	(御着城にあたり名主らは常盤町まで出迎えよとの指示)	6月26日	—	畠山良右衛門	町年寄中	状	1	
71	(登城の差紙)	11月晦日	—	鈴木衛守、木村市兵衛	磯部宇右衛門殿	状	1	綾沙小袖・麻袴の服装でまかりでよ
72	(殿様御縁組の祝いに五節句御礼の者たちが役宅を廻勤することの通知)	4月6日	—	村瀬伝太夫	町年寄中	状	1	平服で行く
73	(白子御役所への願書に急ぎ調印のうえ拙宅へ届けるよう依頼)	10月28日	—	杉浦嘉右衛門	磯部宇右衛門様、河合善吉様	状	1	
74	(寺社奉行からの達の伝達書)	5月13日	—	鈴鹿修理正口(花押)	鈴本長門守様	状	1	別紙本文はなし。口は「常」?
75	(松平右京亮からの達の伝達と速やかな上納を求める書状)	正月15日	—	鈴鹿陸奥守勝(花押)、鈴鹿但馬守芳春(花押)、鈴鹿石見守	伊勢国川曲郡 諸社家中	折	1	
76	(石橋町古手屋藤助に付き添う名主に関して書状)	3月14日	—	林新右衛門	町年寄中	状	1	岡田藤兵衛が行けないため代理者の相談
77	(外国交易の約条書・税則書の拝見願い)	8月8日	—	小川幸左衛門	町年寄中	状	1	
78	(一身田よりの使僧受入準備の通知)	5月8日	—	小川幸左衛門	町年寄中	状	1	町会所で対応する予定
79	(触書の伝達と川町人別々高の誤記につき書状)	3月13日	—	小川幸左衛門	町年寄中	状	1	
80	請書(金子元利とも受取証)	文久2戌6月14日	1862	磯部とら	磯部良祐様	状	1	
81	(登城の差紙)	12月14日	—	松原孫兵衛	磯部宇右衛門殿	状	1	
82	(称名寺年頭御礼・願行寺住職願の許可通知)	12月11日	—	中条孫右衛門	町年寄中	状	1	
83	(国分村の者の筈払に関し相談のため入来を待つ書状)	12月20日	—	村瀬伝太夫	磯部宇右衛門様	状	1	

84	(入来を待つ書状)	6月12日	—	村瀬伝太夫	磯部宇右衛門様	状	1	
85	(異国降伏武運長久国家静謐の祈禱をするよう指示書)	3月5日	—	鈴鹿修理	鈴木長門守様	状	1	
86	絵馬殿諸入用(修理費の見積もりか)	—	—	—	—	状	1	
87	覚(神福寺地金毘羅・清光院天王を鈴木信厚に委任する)	6月	—	掌祠	町年寄中	状	1	
88	(河曲郡式内社19座のうち5社の所在地について書付)	—	—	本多河内守	—	状	1	
89	覚(御材木曳入にあたり神前奉献物の覚)	11月16日	—	西条村	—	状	1	「鈴木長門守様 中島新七郎」と書いた包紙入り
90	(御米売役に任じられたことの案内状)	10月朔日	—	松原孫兵衛	町年寄中	状	1	
91	(鈴木衛守が明日着く予定との連絡)	3月28日	—	村瀬伝太夫	町年寄中	状	1	
92	(大橋控え抗の打替につき通知)	3月23日	—	松原紋兵衛、小川幸左衛門	町年寄中	状	1	
93	(常盤町浄瑠璃の招き・縁台・幟について書状)	5月9日	—	村瀬伝太夫	町年寄中	状	1	
94	(登城の差紙)	7月24日	—	畠山良右衛門	町年寄中	状	1	
95	(御殿へ来るようにとの差紙)	9月19日	—	畠山良右衛門	町年寄中	状	1	
96	(仰せ出の通達書)	7月7日	—	町奉行	町年寄中	状	1	別紙のとおり仰せ出られた
97	(観音寺へ御仏参を仰せ出されたことの通知)	7月10日	—	畠山良右衛門	町年寄中	状	1	
98	奉願霊神号(遠藤喜右衛門への鎮護霊神号許可願い)	天保12丑	1841	—	口田様 御役所	状	1	下書き、上部欠損。遠藤喜右衛門源定久は天保11年没
99	(河合氏の都合により延日となった通知。年頭和歌あり)	正月23日	—	平井七郎兵衛	鈴木長門守様	状	1	平井の実名は正儀。松樹を摺りこんだ料紙
100	(宿方拝借金のため積立金などの至急調査の依頼書)	7月10日	—	畠山良右衛門	磯部宇右衛門殿	状	1	
101	(宿方拝借金のため差引請払明細など調査の指示)	7月11日	—	畠山良右衛門、織田才兵衛	町年寄中	状	1	
102	(中条兵庫の惣領死去のため音曲等の停止通知)	8月18日	—	町奉行	町年寄中	状	1	惣領の名は鋸登代(タトヨ)
103	(別紙の者の会所への差紙)	4月24日	—	小川幸左衛門、林新左衛門	町年寄中	状	1	
104	(鍛冶町伊助の組内出火に慎に及ばずとの通知)	4月5日	—	小川幸左衛門、林新左衛門	町年寄中	状	1	

105	(御殿へ来るようにとの差紙)	8月2日	—	小川幸左衛門、村瀬伝太夫	町年寄中	状	1	
106	(御殿へ来るようにとの差紙)	9月19日	—	小川幸左衛門	町年寄中	状	1	
107	(登城の差紙)	6月25日	—	林新左衛門	磯部宇右衛門殿	状	1	
108	(公儀の御布令の伝達)	7月7日	—	小川幸左衛門	町年寄中	状	1	
109	(御仏参の刻限につき通知)	7月11日	—	畠山良右衛門	町年寄中	状	1	4ツ時分にお出で
110	(鈴木衛守が町郷両奉行就任、近日帰着の通知)	3月24日	—	村瀬伝太夫	町年寄中	状	1	町中廻状を出すこと
111	(御仏米の入札の留札期日の通知)	12月11日	—	松原孫兵衛	町年寄中	状	1	12日が留札
112	(相生嘉助の名主退役願いの許可通知)	4月4日	—	松原紋兵衛、小川幸左衛門	町年寄中	状	1	
113	(公儀の御布令の伝達)	8月27日	—	小川幸左衛門	町年寄中	状	1	
114	(北茅町と新町との銀勘定の覚)	—	—	—	—	折	1	
115	(漆器など商売関係の書類の控えか)	(明治)	—	—	—	状	1	岡田藤平より磯部宇右衛門・黒田久蔵を含む
116	旧藩公御歴代御名表(本多家歴代表。印刷)	明治39年3月25日	1906	神戸旧藩士素誠会	—	単	2	長徳院殿百五十年追祭のために作成したもの
117	藩祖長徳院殿猗蘭公御略伝(印刷)	明治39年3月25日	1906	三重県士族 松野宗太郎	—	和	1	
118	多武峯遺事漫録(印刷)	明治31年12月9日	1898	奈良県士族 舟橋勇	—	和	1	
119	従公儀被仰出候御書付之写(寛文以前古分銅使用禁止)	正月	—	—	—	状	1	12月に触れ出し。後藤四郎兵衛に改めさせる
120	従公儀被仰出候御書附之写(天保2朱金引替え通達)	(寅)4月	—	—	—	状	1	通用停止に伴い
121	従公儀被仰出候御書附之写(淀川通に閘門新設の通達)	9月	—	—	—	状	1	8月に触れ出し。八幡・山崎で水陸とも荷物・人を改める
122	従公儀被仰出候御書附之写(保字金以前の古金引替え)	(慶応2寅)5月	1866	—	—	状	1	古金類・保字金・正字金を辰12月限りに引替え差出せ
123	従公儀被仰出候御書付之写(真鍮銭などの通用につき)	(慶応元)閏5月	1865	—	—	状	1	銅貨払底のため
124	大坂八月六日御布令(市中商人所持の贋金員数と引替えについて)	—	—	—	—	状	1	大坂の状況を地方へ知らせたもの
125	(米倉丹後守逝去のため鳴物・高声を慎むことの触)	3月晦日	—	—	—	状	1	大殿様養母方の従弟(米倉下野守)の父
126	従公儀被仰出候御書附之写(江戸市中と五街道で馬車使用御免につき通行路設定の通達)	11月	—	—	—	状	1	

127	従公儀被仰出候御書附之写(生糸ほか5品の貿易禁令)	9月	—	—	—	状	1	神奈川開港で諸色払底のため
128	従公儀被仰出候御書附之写(陰陽道を職とする者は土御門家の免許を必要とする)	2月	—	—	—	状	1	寛政3年の御触の再触
129	従公儀被仰出候御書附之写(母親を傷害した者の人相書)	2月	—	—	—	状	1	下総国香取郡川頭村百姓喜兵衛悱の喜助
130	従公儀被仰出候御書附之写(養父を傷害した者の人相書)	子12月	—	—	—	状	1	甲州巨摩郡八日村の久蔵
131	従公儀被仰出候御書附之写(パリ万博出品品の募集、海外渡航の許可につき)	(慶応2)4月	1866	—	—	状	1	
132	(16日に長州へ御進発につき静謐と火の元の触)	(慶応元)丑正月	1865	—	—	状	1	
133	(将軍の在坂中は上洛中と同じに心得よとの触れ)	(慶応元?)6月10日	1865	—	—	状	1	家茂は慶応2年7月に大坂城で没
134	(銅座の増設と出銅奨励の触)	(文久2)閏8月	1862	—	—	状	1	
135	従公儀被仰出候御書附之写(海外渡航の手続きにつき)	(慶応元?)11月	1865	—	—	状	1	海外渡航希望者の提出必要事項
136	従公儀被仰出候御書付之写(1朱金引替えにつき)	(安政元)8月	1854	—	—	状	1	1朱銀吹立が進むにつき1朱金の使用禁止。7月触れ出し
137	従公儀被仰出候御書附之写(古銀引替え奨励と増歩につき)	(慶応元)閏5月	1865	—	—	状	1	5月触れ出し
138	従公儀被仰出候御書附之写(安田轍三医師が廻村するので柳・桑・槿などの枝皮を渡すよう指示の触)	12月10日	—	—	—	状	1	松平修理大夫の家来で柳などから綿製造を御免になっている
139	(戸沢銚五郎奥方死去につき鳴物・高声の禁令)	11月11日	—	—	—	状	1	殿様従弟女
140	(水野出羽守死去につき三日間の鳴物禁令)	(慶応2)11月11日	1866	—	—	状	1	老中の水野忠誠。普請は許可する
141	(徳川寿千代逝去につき鳴物・高声の禁令)	2月12日	—	—	—	状	1	
142	(鳴物を渡世にする者へ禁令解除の触)	2月19日	—	—	—	状	1	
143	(天聡院一周忌法事のため鳴物・高声の禁令)	12月19日	—	—	—	状	1	
144	(殿様実家の甥の嫡子死去のため鳴物・高声の禁令)	2月21日	—	—	—	状	1	中条兵庫の嫡子口威磨
145	(高超院三回忌法事のため鳴物・高声の禁令)	2月23日	—	—	—	状	1	
146	(鎮丸死去につき鳴物・高声の禁令)	5月4日	—	—	—	状	1	山田表で出生したばかりの子
147	従公儀被仰出候御書附之写(山陵に無断で手を付けることを禁じ、情報を山陵奉行に申し出るよう命じる)	元治元年子5月	1864	—	—	状	1	青筆で読みなどを書込み
148	従京都被仰出候御書附之写(「禁裏」の語、御紋章、仏語を神号とすること、仏像を神体とすることの禁令)	(慶応4)4月	1868	—	—	状	1	

149	(天皇崩御のため普請鳴物などの禁令)	(慶応3)卯正月	1867	—	—	状	1	慶応2年12月、孝明天皇死去
150	(明治改元と一代一号と定めることの触)	(明治元)9月	1868	—	—	状	1	
151	従京都被仰出候御書附之写(金札通用の触)	(明治元)辰10月	1868	—	—	状	1	
152	従京都被仰出候御書附之写(洋銀の交換レート触)	(明治2)3月	1869	—	—	状	1	洋銀1枚=金3分
153	従京都被仰出候御書附之写(金札引換に歩合引くをすること、外国貿易以外で金札を嫌忌することの禁令)	5月	—	行政官	—	状	1	
154	口達(氏神祭礼・神社持ちへ寺院の関与、僧侶のみだりな復飾を禁ずる行政官布達の触)	(明治元)辰	1868	大津県	—	状	2	同じもの2通
155	従京都被仰出候御書附之写(銅銭の相場につき触)	4月	—	—	—	状	1	1文=鑊銭6文
156	(神祇官再興の布告を伝える書状)	(慶応4)4月7日	1868	小川幸左衛門	(鈴)本大和殿	状	1	
157	従京都被仰出候御書附之写(銅銭の相場につき虚説を禁じ、規定通りのレートを守るよう太政官布達の触)	(明治2)10月	1869	留守官	—	状	1	太政官は東京にあり
158	従東京被仰出候御書附之写(少額の太政官札発行)	9月	—	大政官	—	状	1	民部省通商司より2分~1朱の4種を出す
159	従東京被仰出候御書附之写(横浜の商館への強盗殺人犯の手配書)	11月	—	民部省	—	状	1	横浜居留地で2人組の賊が英人「ホーイ」を殺害、強盗
160	従東京被仰出候御書附之写(諸国神社事務の一部を神祇官から地方官へ移管する太政官布達の触)	6月	—	藩庁	—	状	1	
161	従東京被仰出候御書付之写(府藩県の公廩を庁と称するとの太政官布達の触)	2月	—	藩庁	—	状	1	
162	今般従京都被仰出候御書付之写(図書出版につき)	(明治2)正月	—	行政官	—	状	1	
163	津奉行所御達し有之写(式内・式外社調査の廻村につき)	正月10日	—	—	—	状	1	山田御巫尚書が度会府から命じられて廻村
164	奉願候口上覚(門前に神号の標示杭設置につき)	—	—	—	—	状	1	このたび御通輿に代拝を賜ったことを契機に
165	(皇后宮通輿につき火の元用心の触)	(明治2)10月	1869	—	—	状	1	東海道を通輿
166	従東京被仰出候御書付之写(金札との交換につき)	(明治2)巳11月	1869	太政官	—	状	1	銀台は100両=金札30両
167	従公儀被仰出候御書附之写(野州大平山・常州筑波山に集屯した浪人の取り押さえにつき)	5月	—	—	—	状	1	中欠
168	従京都被仰出候御書附之写(古金銀当分通用につき)	(慶応4)2月	1868	—	—	状	1	
169	従京都被仰出候御書附之写(神祇官再興の布達の触)	(慶応4)4月7日	1868	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
170	従京都被仰出候御書附之写(金札通用の不法取締り)	(慶応4)7月	1868	—	—	状	1	



171	(町年寄から市老、大庄屋から郷保と改称の通知)	(慶応4)6月22日	1868	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
172	(代官・郡奉行などの改称の通知)	—	—	—	—	状	1	
173	副書(下役の不法などにつき)	—	—	—	—	状	1	
174	覚(神仏分離による神号改号の通知)	(明治3)庚午6月	1870	掌祠	—	状	1	山王権現→日吉大神、牛頭天王→葦原神社ほか
175-1	(別紙布令伝達の書状)	(明治2)10月24日	1869	小川幸左	鈴木信厚殿	状	1	2・3はともに1に包んであり
175-2	(大村益次郎暗殺者の捜索につき留守官布達の触)	(明治2)9月	1869	—	—	状	1	
175-3	(大村益次郎暗殺逃亡者の氏名につき留守官布達の触)	(明治2)10月	1869	—	—	状	1	
176	御布告之写(中国人による人身売買取締りの太政官布達の触)	(明治3)庚午9月	1870	藩庁	—	状	1	文書下部欠損
177	御書附之写 販売鴉片烟律(アヘン販売を禁じる太政官布達の触)	(明治3)庚午8月	1870	藩庁	—	状	1	
178	(天皇東幸の通輦にあたり火の用心などの触)	(明治2)3月	1869	—	—	状	1	(2回目の東幸で神戸の富坂本陣で休息)
179-1	従東京被仰出候御書付之写(外国航海出願規則)	正月	—	太政官	—	状	1	「御布令」と書いた包紙入り
179-2	御書付之写(桃園など4天皇の崩御日を祭日とする)	2月	—	—	—	状	1	桃園・後桃園・後桜町・仁孝の4天皇
179-3	(別紙布令伝達の書状)	2月16日	—	小川幸左	鈴木信厚殿	状	1	
180	覚(飯野神社の例祭などの神納配当について伺い。「許可」の印あり)	明治4年辛未9月8日	1871	祠官 鈴木信重	県庁御中	状	1	祠官・祠掌の分配割合
181	(藩庁の合印変更の通知)	3月	—	藩庁	—	折	1	
182	口上覚(遷宮のため金20両寄進依頼)	(嘉永5)子10月	1852	中条権右衛門	—	状	1	前遷宮から22年経過
183	(神戸惣社の神館神明社造営に城主より100両寄進するとの達)	(天保元寅)10月	1830	—	—	状	1	来子年が神戸引越し100年目
184	口達覚(堂社建替は従来通りにせよ)	巳3月	—	—	—	状	1	新規は不許可
185	奉伺口上書(震災で傾いた拝殿の建替え願下書)	嘉永5年寅7月	1852	鈴木長門守	寺社御奉行所	状	1	上部はネズミにより食い千切られ
186	(鈴木長門守の寺社奉行所への差紙)	10月8日	—	大庄屋	高宮村 庄屋中	状	1	
187	(殿様藩知事任命の祝に役宅へ廻勤の指示)	(明治2)6月晦日	1869	小笠原彦太夫	鈴木大和守殿	状	1	
188	(賄賂厳禁の達)	庚午11月	1870	藩庁	—	状	1	

189-1	(入暑の通知)	6月20日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
189-2	(祭礼許可と出役同心について通知)	7月20日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
189-3	(奉納提灯ができているとの通知)	6月15日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
189-4	(拝借米の許可が出たとの通知)	9月14日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
189-5	(相談のためお出でを願う通知)	6月5日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
189-6	(別紙の伝達状)	6月29日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
189-7	(伝達があるため庁へ出頭依頼)	6月2日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
189-8	(相談のためお出でを願う通知)	6月7日	—	掌祠	鈴木信厚殿	状	1	
190	(本多忠升から頂戴した扶持の継続願い)	3月	—	—	—	状	1	天保期に亡父長等に頂戴した
191-1	遣し申一札之事(離縁状)	嘉永3戌5月27日	1850	伊兵衛	仲どの	状	1	
191-2	覚(代金受取書)	7月1日	—	飾屋 伊兵衛	鈴木様	状	1	鞆など
192	(祝い品の札、桑名一条、妻の病状などにつき書状)	10月18日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
193	(小児内祝品呈上、綿代金精算につき書状)	7月8日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
194	(船積入港した大豆の仕入状況、飴の札につき書状)	9月13日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	南部八戸・南部花巻の大豆を仕入れた
195	(御切手米の残金受取につき書状)	8月5日	—	田中	磯部様	状	1	
196	(口入金20両と利息の催促依頼状)	10月晦日	—	田中	磯部様	状	1	
197	(購入したい御蔵米の額について依頼状)	12月18日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	50両分と言われたが100両か100俵までお願いしたい
198	(御上様金子が1500両許されたことの札、上方の治安や米価状況などにつき書状)	6日	—	田中	磯部様	状	1	信楽でなくそちらで借りられるので有り難い
199	(七夕御祝儀の札、辻氏に菓子を送ったこと、豆・綿代残金の催促及び綿の処理につき書状)	7月11日	—	利助	磯卯右衛門様	状	1	
200	(神戸御蔵米200両分の購入について依頼状)	12月11日	—	田中利助	磯卯右衛門様	状	1	購入後は長太の蔵から船積する予定
201	(稲葉行き金子の預かり、綿・大豆の相場につき書状)	10月16日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	

202	(縫殿が若松へ来るにつき親戚が参集するが、陣屋普請・港の荷受など多忙で行けないとの書状)	12月16日	—	田中	磯部様	状	1	上洛のための陣屋普請
203	(寸時でも16日の慶事に出席を依頼する書状)	11月13日	—	田中利助	磯部宇右衛門様	状	1	入寒のため殿様御伺・役宅廻勤で磯部は多忙
204	(駕の仕様と製作依頼、羽折傘などの手配につき書状)	4月10日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	裏面に和歌2首の下書きあり
205	(辻氏の手本の送り状、暑中見舞いの礼状)	6月29日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
206	(大豆代金受取、綿・大豆の相場予想、江戸の柏屋を辞めた人物の聞き合わせにつき書状)	11月10日	—	利助	磯部宇右衛門様	状	1	
207	(鏡餅の礼、上方綿の見本につき二白)	—	—	—	—	状	1	手紙の追伸部分のみ
208	(中元の送り状、縮を引き受けてくれた礼状)	7月6日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
209	(拝見した「公」の書画の購入を見合わせるとの書状)	12月15日	—	田中利助	磯部宇右衛門様	状	1	
210	(仁斎先生の額の購入を見合わせるとの書状)	2日	—	利助	磯卯右衛門様	状	1	
211	(鹿間屋吉兵衛の娘の死を吉兵衛と誤報があった事情、吉兵衛の病状につき書状)	6月13日	—	田中利吉	磯部卯右衛門様	状	1	親子が同じ流行病で、7歳の娘が死去。親は大垣の飯沼から往診を受けている
212	(再度の聞き合わせの依頼、十露盤百日稽古につき書状)	28日	—	—	—	状	1	
213	(10両入金受取、おたね様の病気見舞い、昨夜暴風の見舞いにつき書状)	8月29日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
214	(糯米の礼、小児のための塩あられの無心状)	23日	—	田中利助	磯卯右衛門様	状	1	
215	(清水寺の御守の礼、鹿間屋主人の病状などにつき書状)	6月12日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
216	(張書執筆の礼、古塩明樽発送につき書状)	12月4日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	鼠損あり
217	(訪問時の礼、注文の新塩が高値であること、東匡先生の巻物の送付、「字藁」入手と張札執筆依頼などの書状)	12月朔日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
218	(「こよ」の安産、大豆30俵の送付につき書状)	2月6日	—	田中利助	磯部卯右衛門様	状	1	
219	キ(金40円受取証)	明治35年6月24日	1902	森新三郎(印「伊勢四日市」)	磯部利助様	状	1	
220	(父が善光寺参りをして東京で発病、現在も東京で治療中であると知らせる書状)	8月3日	—	田中勘兵衛 代石之助	磯部又一郎様、同利助様	状	1	
221	(米の入手と船積依頼状。前欠)	閏月朔日	—	泰介	利助殿	状	1	
222	(約定の金100両などの受取、金札と交換する銀札の送付などにつき書状)	朔日	—	泰介	利助様	状	1	

223	(坂一条の件、綿の市場状況につき書状)	6月25日	—	利助	磯部卯右衛門様	状	1	
224	(大豆・綿代金の精算、小児の生育などにつき書状)	7月6日	—	利助	卯右衛門様	状	1	善光寺地震の年か
225	(信州の大変、当地暴風の被害状況などにつき書状)	11日	—	利助	卯右衛門様	状	1	
226	(縞染の交易、腫物の病状、傘・桐油など送付につき書状)	4月19日	—	磯部宇右衛門	田中利助様	状	1	
227	(300金の返金につき石樽郷百姓の依頼の取り次ぎ状)	5月17日	—	藤田戈太	磯部利助殿	状	1	塩浜屋が間に入っている
228	(館平兵衛の動静、寒中見舞呈上、諸国情勢につき書状)	6月17日	—	内三人	利助殿	状	1	大坂で天保山を造築中
229	相庭(米・大豆・菜種・水油・くり綿ほか)	10月朔日	—	田中店	磯部利助様	状	1	
230	(帯屋返金、高橋口未返納につき御都合を願う書状)	7月25日	—	藤平	磯部久一郎様	状	1	
231	(養父13回忌に帰国予定の通知。太政官布告で休みが取りがたい状況にある)	11月30日	—	下総国東葛飾郡市川村寄留 岡田藤平	神戸新町 磯部宇右衛門様	状	1	
232	(合計80両余借用の依頼状)	1月22日	—	藤平	磯部雅君	状	1	悌次郎は了解済の金子
233	(字典新本は高価なため返したとの書状)	3月15日	—	天野長二郎	磯部雅君	状	1	
234	(親子とも千葉県庁奉職など近況の通知。後欠)	(明治15)	1882	—	—	状	1	
235	(注文の羽織の仕様、金山寺で誂えた品などの送り状)	11月28日	—	磯部内	伊左衛門殿御店内 宇吉	状	1	
236	(遅れていた返済金の渡し状)	6月22日	—	藤平	磯久一郎様	状	1	
237	(安民講残金について)	7月17日	—	岡田藤平	磯久一郎様	状	1	
238	(15両受取と、残金の催促状)	7月晦日	—	岡田藤平	磯部久一郎様	状	1	
239	(40両手配の依頼状)	7月17日	—	藤平	磯部久一郎様	状	1	
240	(講掛け金、安民講、山遊びなどにつき書状)	8月17日	—	藤平	久一郎様	状	1	
241	(至急の参会触出し、古小判お戻しなどにつき書状)	10月7日	—	藤平	磯部久一郎様	状	1	
242	(仕舞算用のため残金をこの者に渡してほしいとの書状)	1月18日	—	岡田藤平、伊藤宗九郎	磯部様	状	1	
243	覚(貸金と利息の覚)	—	—	—	—	状	1	
244	(返済催促と来月20日切で100両皆済の願い状)	10月晦日	—	藤平	磯部久一郎様	状	1	

245	(古小判返却、残り金勘定につき依頼状)	—	—	藤平	磯御両君	状	1	上書きは「磯宇右衛門様 岡田□□(破損)」
246	口上(貸下げ金の元利返却催促)	—	—	高橋増兵衛	石橋町 岡田藤平殿	状	1	
247	口代(米札25両受取、古三ほか返済金につき。下書)	8日	—	藤平	○松様	状	1	清水半蔵からの上書包紙を再利用
248	(借入金、塩代・金札米札引換代などの依頼状)	4月19日	—	藤平	磯部御両人様	状	1	
249	(惣町入用分に20匁ほどこの者へ渡してほしいと依頼状)	1月26日	—	藤平	磯部賢君	状	1	悌次郎は了解済の金子
250	(20日までに元利皆済の依頼状)	11月14日	—	藤平	磯部御両人様	状	1	
251	(家財売り立ての依頼、入用金額、送金方法などにつき書状)	7月18日	—	岡田藤平	磯部宇右衛門様、黒田久蔵様、田中橋五郎様、林駒蔵様	状	1	本多公盃などを含む
252	(海岸部に転居して家族を呼び寄せたことの通知、神戸の畑地などの様子を探る書状)	明治16年3月21日	1883	千葉県安房国安房郡海岸 住居相浜村天野左平次家 岡田藤平	いせ神戸 ○松様	状	1	(黒田久蔵, お登三様の様子も伺っている) 「○の中に松」は松島屋の略
253-1	覚(3口分の利息勘定書)	申7月	—	塩藤	○松様	状	1	
253-2	覚(3口分の元利勘定書)	申6月	—	塩藤	○松様	状	1	
253-3	覚(味噌など代金・米札・金札の勘定書)	申2月	—	ヤマト	○松様	状	1	
254	口上(この者に是非渡してほしいとの依頼)	11月24日	—	藤平	久一郎様	状	1	金札でもよい
255	(利足を今日中に渡してほしいとの依頼状)	1月11日	—	ヤマト	○松様	状	1	老人が心配しているにつき
256	覚(国札40両の受取書)	壬申正月晦日	1872	田中耕作(印)	磯部久一郎様	状	1	
257	覚(大豆・綿・塩代金と入金金の差引き勘定書)	巳7月	—	田中武兵衛(印「伊勢四日市」)	松島屋宇右衛門様	状	1	
258	相場(各地の米・大豆・麦・粕・油・銭など)	(明治3?)午閏月17日	1870	車屋 五兵衛(印)	—	状	1	
259	記(20両の内10両の受取書)	6月8日	—	万屋 甚□(印「勢州四日市万甚」)	松島屋卯右衛門様	状	1	
260	(900両の借金と返金の元利勘定書)	—	—	—	—	状	1	
261	覚(蠟・砂糖などの運賃・蔵敷料の仕切状)	(明治3)午閏10月26日	1870	徳田屋武兵衛	松島屋卯右衛門殿	状	1	徳田屋は四日市
262	(4両取りかえの件につき書付)	—	—	—	—	状	1	
263	(飛脚賃・昆布代などの仕切り状)	巳10月21日	—	—	○松様	状	1	

264	覚(いせ屋治兵衛あて金札18両入包みの預かり状)	午10月12日	—	薬屋六郎兵衛(印「勢州津定飛脚」)	神戸 松島屋宇右衛門様	状	1	
265	当地九右衛門船送り状之事(南部大豆、あこ垣、実綿)	辰10月15日	—	イセ四日市 田中武兵衛(印)	南若松 木屋喜右衛門殿 迄、神戸 松島屋卯右衛門 殿行	状	1	
266	覚(残金・渡し金と受取金の勘定書)	未7月	—	塩藤	○松様	状	1	
267	覚(酒・溜・味噌の仕込み覚)	申正月	—	塩藤	○松様	状	1	
268	(江戸表より普請役が入込んでいるが、自分は養生のため気楽に暮らしているとの書付)	—	—	—	—	状	1	
269	覚(塩・羊羹代金、立て替え金などの勘定書)	午12月	—	塩藤	○松様	状	1	
270	追啓申上候(浜店支配人半七の不埒など)	—	—	—	—	状	1	追伸部分のみ
271	(依頼の金をこの使の者に渡すよう依頼状)	8月29日	—	ヤマト	○松サマ	状	1	
272	覚(文政小判・天保小判計5枚の受取書)	11月27日	—	塩藤(印「勢州神戸塩藤」)	○松サマ	状	1	
273	覚(安民講の有金など)	—	—	—	—	状	1	
274	口上(10両入用のため急借用依頼)	8月晦日	—	ヤマト	○松様	状	1	
275	記(白砂糖などの仕切書)	(明治)卯3月	—	さゝや 安兵衛	磯部卯右衛門様	状	1	
276	覚(大豆・塩など代金覚)	—	—	—	—	状	1	味噌・溜りの仕込み覚えか
277	覚(307両の借金の返済覚)	11月26日	—	いせ益	まつ島屋様	状	1	
278	覚(25両入包の受取証)	巳12月晦日	—	黒川彦左衛門 代惣八(印)	磯部宇右衛門殿	状	1	
279	覚(年賦金など貸付金の入金依頼)	—	—	—	—	状	1	
280	口上(惣町金の内15両をこの者へ渡すよう依頼)	1月16日	—	副兩人	磯部宇右衛門様	状	1	
281	覚(味噌・溜りなど仕切書)	—	—	—	—	状	1	
282	(大屋知戻金などの覚。前欠)	—	—	—	—	状	1	信仰関係?
283	覚(色紙2枚の代金覚)	うし7月	—	松しまや 宇右衛門	細田八三郎様	状	1	
284	覚(画料の取替え)	辰7月	—	松しまや	田中武右衛門様	状	1	

285	覚(蠟燭・馬上蠟の代金覚)	辰7月	—	松島屋店	館御氏	状	1	
286	覚(駄賃覚)	辰7月	—	松島屋	天野様	状	1	
287	覚(みそ5貫目代金覚)	辰12月	—	松しまや 宇右衛門	新助様	状	1	
288	覚(竹代金覚)	辰7月	—	松島屋	岡田重蔵様	状	1	
289	覚(2朱2匁と5分8厘の金額覚)	辰7月	—	松島屋 宇右衛門	孫九郎様	状	1	
290	覚(卯冬残金覚)	—	—	松島屋 宇右衛門	馬家新田 瓦屋五兵衛様	状	1	
291	覚(5両1分の金額覚。残金か)	辰7月	—	松島屋 宇右衛門	桑名 さゝ木屋様	状	1	
292	覚(溜り代金覚)	辰7月	—	松島屋	田中様	状	1	かご直し賃の立て替え分を含む
293	覚(米札・金札・三井手形の計50両分受取書)	申6月	—	塩藤(印「勢州神戸塩藤」)	伊藤様	状	1	
294	(味噌の取引、販売した「黒砂」の不良への対応などにつき書状)	9月18日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
295	(神戸御切手米の取り計らいの依頼状)	6日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
296	(理右衛門への説諭内容、買い付け推奨品などにつき書状)	2月朔日	—	田中	磯部様	状	1	
297	(桑名・江戸との味噌取引につき書状)	29日	—	武兵衛	卯右衛門様	状	1	
298	覚(味噌・種粕などの仕切書)	午12月	—	田中武兵衛(印「伊勢四日市」)	松島屋卯右衛門様	状	1	
299	(貞養尼の寺の費用借用の件について書状)	29日	—	武兵衛	卯右衛門様	状	1	貞養尼が入寺するためか
300	(掛幅の入手、手鑑作成につき書状)	19日	—	武兵衛	卯右衛門様	状	1	
301	(左官の世話の礼、軸の返送、額下地などにつき書状)	—	—	田中	磯部様	状	1	
302	(店伊印一条の始末につき書付)	—	—	—	—	状	1	端裏「御内覧申候」
303	二白(「家持」の呈上、「柳一ツ葉」・膳椀代金の受取)	28日	—	田中	磯部様	状	1	柳は有栖川宮から一身田門主への贈り物
304	(風邪の流行・藤尾様から和歌の勧めなどにつき書状)	10日	—	田中	磯部様	状	1	裏に和歌草稿あり
305	(先日みた丸一屋のカムリ台の有無を尋ねる書状)	10月27日	—	—	—	状	1	買いたいという人物がある
306	(適切な人物の候補につき書状)	11月23日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	縁談

307	(桑名一条の停滞、津・松坂などの人物につき書状)	10月17日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	縁談
308	(出産祝の送付、藤尾様方の当座和歌につき書状)	4月11日	—	武兵衛	宇右衛門様	状	1	
309	(出産祝の礼状)	正月21日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
310	(全て高値のため手出ししないとの書状)	23日	—	田中武兵衛	神戸 磯部宇右衛門様	状	1	
311	(12~13才の小児の推薦を願う書状)	3日	—	武兵衛	宇右衛門様	状	1	
312	(年賀状)	正月6日	—	坂部蔵市、堅助	磯辺卯右衛門様	折	1	
313	(返品 of 落掌につき書状。書画類だろう)	2日	—	武兵衛	卯右衛門様	状	1	
314	(疱瘡除けのお礼の礼状)	3月11日	—	田中武兵衛	磯辺卯右衛門様	状	1	
315	(大豆の買い入れが適切であったこと、養生論の礼状)	10月29日	—	武兵衛	宇右衛門様	状	1	
316	(桑名の笹部内室おひと様死去への対応につき書状)	13日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
317	(利助を上京させお願いをさせるので取持ちを依頼する書状)	閏10月朔日	—	田中武兵衛・田中長蔵(印「伊勢四日市田武」)	兵庫 京屋又兵衛様・安兵衛様	状	1	
318	(御鏡料呈上と病人の見舞状)	(12月)22日	—	田中武兵衛	磯部卯右衛門様	状	1	
319	(箱・徳利の返却、白魚が生育不良のため寒中見舞いに送れないこと、出店の看板執筆依頼などの書状)	12月19日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
320	(服部氏の慶事の御祝の品の送り状)	9月25日	—	田中武兵衛	磯部卯右衛門様	状	1	
321	(開店予定、尊家御改革のことにつき書状)	正月11日	—	田中武右衛門	磯御伯父様	状	1	
322	(小児引取の席への出席依頼状)	6月13日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	追伸が挟み込み
323	(時鳥の愚詠の添削、村井行き御状の行方につき書状)	6日	—	田中	磯部様	状	1	
324	(小児の種痘が済んだこと、橋一条金子、玉詠の認めと愚詠添削について書状)	—	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
325	(御米入升書換えの後始末につき書状)	6日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
326	(安産のこと、子の名づけの心積もり、病状、鉄瓶・徳利ほかの購入などにつき書状)	正月21日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
327	(新米の入荷が薄く神戸様御頼米がでかかねるとの書状)	20日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
328	(米・綿・一角などの取引につき書状)	4月9日	—	武兵衛	卯右衛門様	状	1	



329	(詩経などを持たせること、普請見舞の礼につき書状)	2日	—	田中武兵衛	磯卯右衛門様	状	1	
330	(炭の購入、子供の召抱について相談、溜りにつき書状)	6月7日	—	田中	磯部様	状	1	手描きの草花図入り料紙
331	(みそ用大豆仕入の状況、借入金依頼につき書状)	16日	—	田中武兵衛	磯部卯右衛門様	状	1	
332	(小児他三郎の体調と薬につき書状)	3月20日	—	田中武兵衛	磯部卯右衛門様	状	1	
333	(扇面会のため愚詠への加筆依頼状)	14日	—	田中	磯部様	状	1	
334	覚(「徳亦」の仕切状)	正月9日	—	田中武兵衛(印「伊勢四日市田武」)	磯部宇右衛門様	状	1	
335	(大豆の仕切書、乳母召し抱えにつき書状)	4日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
336	(小児初正月の若夫婦からの祝いの代理の依頼状)	26日	—	田中	磯部様	状	1	
337	(塩の相場、塩・綿の購入、各店への売掛金状況につき書状)	8月13日	—	田中武兵衛	磯部卯右衛門様	状	1	
338	(海屋の額、大雅の四季一行、村井氏扇面会につき書状)	10月9日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
339	(いつくや取引金・信楽への献金などの処理、紀州浦で難船したための被害につき書状)	3月28日	—	田中	磯部様	状	1	
340	(立替分などの差引き残金・山陽の掛幅代金の受取の書状)	11日	—	田中武兵衛	磯部宇右衛門様	状	1	
341	(風邪の流行状況、藤尾様行き書状の受取、小児を引取る当てなどにつき書状)	2月5日	—	武兵衛	卯右衛門様	状	1	前欠、末尾に和歌あり
342	(延引していた口入金の支払いにつき書状)	6月24日	—	丹生川上村 伊藤貞	神戸新町 磯部理右衛門様	状	1	封筒入り
343	(引き合いの金ができるのでお届けするとの書状)	5月10日	—	丹生川上村 藤田才太	磯部理助様	状	1	
344	(金札10両の受取と礼状)	6月3日	—	丹生川 伊藤貞	神戸 磯部理右衛門様	状	1	
345	(酒飯料の礼、南講加入金送付の延引の釈明などにつき書状)	4月10日	—	伊藤田八良	磯部利右衛門様	状	1	
346	亡父磯部理右衛門武貞筆(整理用の札か)	—	—	—	—	他	1	
347	(包紙のみ)	6月10日	—	石薬師八百店二而 藤田才太	神戸新町 磯部理助様	他	1	
348	(京都の触伝達の添え状)	4月13日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
349	(別紙布令書伝達の添え状)	2月19日	—	小川幸左	鈴木信厚殿	状	1	
350	(別紙布令書伝達の添え状)	10月9日	—	小川幸左衛門	鈴木信厚殿	状	1	

351	覚(金2両の借用証)	文久3年10月	1863	赤堀(?)十五郎(印)	鈴本山城様 御口入	状	1	
352	(恩借の物件の返却と一部の借用延長につき依頼)	—	—	川村定	鈴本雅兄	状	1	川村は現在禁錮中
353	畑売渡シ証文之事	文化元年子4月	1804	石橋町 紺屋善兵衛(印)	石橋町 神主様	状	1	「畑買証文 観音寺裏川端也」と書いた包紙入り
354-1	(別紙布令書伝達の添え状)	11月7日	—	小川幸左	鈴本信厚殿	状	1	「鈴本信厚様 小川幸左」と書いた包紙入り
354-2	従来京都被仰出候御書附之写(西洋風帆船・蒸気船所有の許可、新鑄銭につき)	10月	—	—	—	状	1	
355	覚(小川様講の仕法)	10月2日	—	松井や 久右衛門	鈴本様	状	1	
356	(遷宮に関し産穢・死穢などにつき返答書)	3月28日	—	鈴鹿修理	鈴本長門守様	状	1	
357	(神徳講初会後の食事につき廻章)	2月25日	—	鈴本氏 講世話方	石橋町 田永屋茂七様ほか27名	状	1	表書「廻章 神徳講世話方」
358	奉願口上覚(大橋祐一郎を鈴本とわの婿養子とする願い)	明治4年辛未9月8日	1871	高宮村 熊野社祠掌 鈴本信重(印)	県庁御中	状	1	祐一郎は桑名郡長地新出村郷土:大橋与市の弟
359	確証(神戸町総社神職相続にあたり加佐登社神納につき。来年度より3分を神納する)	明治11年4月7日	1878	鈴鹿郡高宮村 鈴本信重(印)	河曲郡神戸 鈴本信弘殿	状	1	総社神職拜命により高宮村鈴本家は絶家となる。加佐登社神納は両親死去後は納めなくなったが、今回の日本武尊墓所の件に関して約定。「鈴本信重」と書いた包紙入り
360	受取証(神服新調代金の余りの受取)	明治14年7月14日	1881	北若松村祠掌 樋口楽雅(印)	鈴本信弘殿	状	1	
361	規約条証(後藤儀兵衛と鈴本信厚の貸借をすべて帳消しにする)	明治9年丙子4月	1876	石橋町 鈴本信弘(印)、新町 後藤儀兵衛(印)	石橋町 西村長兵衛殿、新町 磯部恒長殿	状	1	「規約証」と書いた包紙入り
362	(屋敷の境界部分絵図)	—	—	—	—	他	1	
363	郷中家数(日永村ほか18ヵ村の家数。計1118軒)	—	—	小川幸左衛門	鈴本長門守様	状	1	梅図の絵封筒入り
364	(美酒などの礼、来宅に都合のよい時間の通知など書状)	10月19日	—	儉斎	長州兄	状	1	「鈴本長門守様 小川幸左衛門」と書いた梅図絵封筒入り
365	(松庵様家督相続の祝賀の廻勤につき通知)	(安政4?)5月9日	1857	小川幸左衛門	鈴本長門殿、木田筑後殿	状	1	上部欠。本多忠寛から忠貫への代替わりか
366	(肴・菓子の呈上、先日依頼の件の頼み状)	3月23日	—	小川幸左衛門	鈴本長門守様	状	1	
367	(御家督祝いの役宅廻勤につき通知)	(安政4?)5月25日	1857	小川幸左衛門	鈴本長門殿、木田筑後殿	状	1	本多忠寛から忠貫への代替わりか
368	(神前への献酒依頼、満願の守護につき書状)	正月20日	—	小川幸左衛門	鈴本長門守様	状	1	
369	(本多家代替わりに神館神明へ家老代拝の通知)	(安政4)5月26日	1857	小川幸左衛門	鈴本長門殿	状	1	
370	(祈祷の功あり殿様快然にあたり初穂献納の書状)	6月21日	—	小川幸左衛門	鈴本長門守様	状	1	
371	(借金返済のための拝借金につき依頼状)	明治9年4月28日	1876	白子桜町信善寺方二寓ス 水原平三郎(印)	鈴本信弘様	状	1	封筒入り。借りられなければ訴えられるという事態

372	(神楽太鼓の返却、「壺柄」の譲り受け依頼につき書状)	7月14日	—	田上重通	鈴木御氏様	状	1	
373	乍恐奉願上口上(新規に設置された鞠鹿野に棒杭と白鳥塚の関わりにつき願書下書)	(19世紀)	—	高宮村神主 鈴木相模守	—	状	1	(上部切れ)
374	(祥翁遺品として茶杓進呈につき書状)	8月	—	千宗左 碌々(花押)	岡田律之丞様	折	1	
375	(葬具取締約定、阿州公らとの集会一条などにつき書状)	4月2日	—	井尻但馬	鈴木長門守様	状	1	
376	(神官を教導職に任じ、衆庶に天朝の主意を説教するよう布達)	壬申(明治5)10月	1872	教導職印	—	状	1	
377	(本2冊の返却について書状)	8月晦日	—	平井七郎兵衛	鈴木長門守様	状	1	磯部へも回覧していた
378	(3品上納のこと、昨日の礼につき書状)	9月25日	—	村瀬伝太夫	鈴木長州様	状	1	
379	(生川らの願書には不都合あり、連印を断るようにとの書状)	6月28日	—	鈴木修理	鈴木長門守様、館阿波守様	状	1	
380	口上(小川幸左衛門の指示で白銀・金100疋の送り状)	11月3日	—	松浦弁次、中錦左馬次	鈴木長門守様	状	1	
381	(銭勘定の世話の礼状)	12月6日	—	村瀬伝太夫	鈴木長門守様	状	1	
382	(継目添翰願の許可について書付)	9月4日	—	林新左衛門	鈴木長門守殿	状	1	
383	(殿様よりの御書、茶園の一品の礼状)	—	—	小川幸左	浦瀬様	状	1	
384	口上代(品々の礼、粗品の進呈につき)	—	—	多美	お常盤様	状	1	
385	(小唄の覚え帳)	—	—	—	—	横	1	
386	覚(屋根葺きの見積もり)	戌10月	—	野町 瓦屋金兵衛	神戸宮ノ前 鈴木長門守様	状	1	
387	奉願口上覚(宮造営費用として町郷の有位者から寄付された金を神田購入にあてたいとの願い)	—	—	—	—	状	1	昨年、上意により宮造営ができた
388	(娘が御暇を得て宿下がりにあたり礼上)	2月9日	—	—	—	状	1	
389	(祈祷後の祓札につき書状)	11月朔日	—	中条孫右衛門	鈴木長門守様	状	1	
390	(稻荷官位の件の礼として肴料の送り状)	12月8日	—	中条孫右衛門	鈴木長門守様	状	1	(上部切れ)
391	(稻荷正一位昇進にあたり寄附の礼状)	12月20日	—	中条孫右衛門	鈴木長門守様	状	1	
392	(来宅依頼状)	7月17日	—	林新左衛門	鈴木長門守殿	状	1	
393	(木田筑後官位昇進願にあたり家老からの添簡の宛名につき書状)	12月5日	—	中条孫右衛門	鈴木長門守様	状	1	

394	(嵯峨の釈迦開扉中に軽業興行をする願書の文面につき書状。願書は鈴木から中条あて)	弘化5年申2月12日	1848	中条孫右衛門	鈴木長門守様	状	1	
395	(紋付幕につき書状)	11月11日	—	林新左衛門	鈴木長門守殿	状	1	(下部切れ)
396	(「山城」への改名の許可につき通知)	9月9日	—	林新左衛門	鈴木長門守殿	状	1	
397	(御代拝の刻限の通知に対する礼状)	7月11日	—	鈴木権六	鈴木長門守様	状	1	
398	(神館神明へは別段御初穂30疋神納の通知)	(天保12)正月13日	1841	畠山良右衛門	鈴木長門殿	状	1	殿様産神のため例年初穂とは別に納める。年は402による
399	覚(66貫文の渡し残金を明日中に渡すとの覚)	28日	—	〇八	宮様	状	1	印は「勢州神戸 口井屋」
400	(世上不穩のため祈祷執行を指示する通知)	8月2日	—	鈴木鹿修理	伊勢国川曲郡 諸社家衆中	状	1	
401	亥年元旦(月の大小を詠みこんだ短歌)	—	—	—	—	状	1	
402	(別段初穂の請書、葉の通い帳)	(天保13)	1842	—	—	状	1	
403	(木田筑後守の年頭祝詞、鈴木家奉仕の神社を神館神明に八幡宮などを含めて6社とする手続きにつき書状)	(丑)3月21日	—	鈴木鹿修理	鈴木長門守様	状	1	息子が11歳になるので継目許状に記載する社数を改めたい
404	(縁女引取りの祝宴の案内状)	12月3日	—	玉田十兵衛	鈴木山城正様	状	1	
405	(疱瘡お札、遷宮時の詠歌、年頭祝詞などにつき書状)	3月10日	—	鈴木鹿修理	鈴木長門守殿	状	1	
406-1	(昨冬注文の神玉の届け状)	3月8日	—	玉屋 善左衛門(印「京都御寺町錦上ル」)	鈴木長門守様	状	1	「勢州神戸 鈴木長門守様 京ト玉屋 善左衛門」と書いた包紙入り
406-2	覚(神玉代金の領収書)	3月8日	—	玉屋 善左衛門(印「京都御寺町錦上ル」)	鈴木長門守様	状	1	
407	(兄弟3人の官位昇進願いの手続きにつき書状)	7月5日	—	鈴木鹿伝蔵	—	状	1	剥がれた貼紙を巻き込み
408	(上梁式に大庄屋役名が出席する先例かどうか尋ね状)	10日	—	磯部久右衛門	鈴木様	状	1	
409	(掛け物は正筆との返書)	11月13日	—	磯部宇右衛門	鈴木長門守様	状	1	
410	覚(金10両の元利とも勘定書)	午10月	—	田中善助	鈴木長門守様	状	1	
411	(神祇道講の肝煎りの依頼状)	8月1日	—	吉田殿御内 木垣□□□介	神戸神館社 鈴木長門守様	状	1	
412	(霊元法皇らの和歌と藩候別の名前一覧)	—	—	—	—	状	1	
413	新館新明・高市神社 宮中絵図面(寺社奉行小川幸左衛門へ提出した写)	文政7年甲申7月20日	1824	清水政友	—	他	1	包紙入り。嘉永3年の書込みあり

414	(代参者について高宮へ連絡の依頼書)	8月29日	—	中条左司馬	鈴木長門様	状	1	汚れ
415	八月十四日(本社ほかへの備え餅のメモ)	—	—	—	—	状	1	
416	帯段平法(算術の例題)	—	—	—	—	状	1	
417	(薬の処方、天赦など陰陽につき覚)	11月5日	—	岡田巳右衛門	鈴木長門守様	状	1	
418	長沢村村山氏屋敷田畑名寄之控	—	—	—	—	折	1	
419	(稻生神事に高宮の神社の神灯・幕焼失の届)	2月7日	—	相模	長門殿	状	1	
420	(相談したいため都合のよい日の指示を頼む書状)	後2月9日	—	坂倉隠岐守	鈴木長門守様	状	1	
421	(山本での件の相談のため町会所へ来臨依頼状)	4月朔日	—	平井七郎兵衛	鈴木長門守様	状	1	
422	(お供えに新米1一俵の送り状)	11月13日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和様	状	1	
423	(大鹿三宅神社の遷宮祭日につき書状)	6月20日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和殿	状	1	
424	(殿様御参内無事済む祝に廻勤の通知)	8月18日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
425	(殿様御参内無事済む祝に廻勤の通知)	8月23日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
426	(別紙触れ書の伝達状)	5月17日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和様	状	1	
427	(依頼の儀につき相談のため登城の連絡)	8月24日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和殿	状	1	
428	(体調不良、明日の祭事の届けにつき書状)	7月20日	—	小笠原彦平太	鈴木信厚殿	状	1	
429	(相談のため入来依頼状)	4月14日	—	小笠原彦平太	鈴木信篤殿	状	1	
430	(相談のため拙宅へ入来依頼状)	4月27日	—	小笠原彦平太	鈴木信厚殿	状	1	
431	(粽献上につき書状)	4月28日	—	小笠原彦平太	鈴木信厚殿	状	1	
432	(法令仰せ出につき印鑑持参で藩庁に来るよう通知)	5月12日	—	小笠原彦平太	鈴木信厚殿	状	1	
433	(病気見舞、東京藩中からの鳥居寄進金を届けるにつき書状)	9月3日	—	小笠原	鈴木様	状	1	
434	(明日、歳暮御参拝と初穂銀札につき通知)	12月21日	—	鈴木靖、中条帰一	鈴木大和殿	状	1	
435	(歳暮御参拝の先例なきにつき中止の通知)	12月21日	—	鈴木靖、中条帰一	鈴木大和殿	状	1	

436	(明日の御神事の代拝者の通知と初穂の送り状)	7月20日	—	鈴木靖、中条帰一、中条次郎	鈴木神主殿	状	1	
437	(明後日祭礼の代拝者の通知と初穂の送り状)	8月14日	—	中条帰一	神館 神主中	状	1	
438	(殿様御着藩の祝として廻勤の通知)	7月25日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和殿	状	1	
439	(今日4ッ時頃迄に来るよにとの通知)	3月5日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和様	状	1	
440	(祭礼につき、当年は許すが永久願は留置くとの通知)	7月19日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和殿	状	1	
441	(別紙触れのの伝達書)	9月2日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和殿	状	1	
442	(殿様帰藩にあたり代拝の初穂の届け状)	7月25日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和様	状	1	
443	(娘子の国替えを悼み、高宮あて書状を預ける書状)	10月15日	—	小笠原彦平太	鈴木信厚様	状	1	
444	(明日殿様参拝の通知と初穂の送り状)	3月21日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和様	状	1	
445	(御触の伝達状)	6月24日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和殿	状	1	
446	(別紙仰せ出の伝達状)	11月15日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和様	状	1	
447	(兵左衛門のこと、椀久一件につき周旋を頼む書状)	10月20日	—	細江春岡	鈴木山城様	状	1	
448	(元吉田家よりの位記・口宣などを藩庁で預かるので提出せよとの指示)	10月5日	—	—	社人	状	1	
449	明治四年未七月十九日 蠟燭之覚	(明治4年)	1871	—	—	状	1	
450	(献上品に対し大殿様ほかより下賜金につき書状)	—	—	東御殿 御小納戸	鈴木山城様	状	1	
451	(新鉄瓶の価格と仕入につき書状)	霜月9日	—	玉田重兵衛	鈴木山城正様	状	1	
452	(上々様御参詣の際の労に対するねぎらい状)	4月18日	—	東御殿 親廻□□	鈴木大和様	状	1	(下切れ)
453	(奥様御着帯祝いの代参の通知と初穂の送り状)	8月22日	—	鈴木富記、中条権右衛門	鈴木大和殿	状	1	
454	(白子金に関する交配の礼および取替え金の一部の送り状)	12月朔日	—	磯部忠右兵衛	鈴木山城様	状	1	
455	(布令書の伝達状)	12月14日	—	—	—	状	1	
456	(大殿様から神館神明へ代参の通知と神納銭送り状)	2月25日	—	寺社奉行	鈴木山城殿	状	1	
457	(只今御出殿との連絡)	2月4日	—	御小納戸 当番	鈴木大和様	状	1	

458	口上(稲荷祭礼に例の通り神楽奉納につき)	2月4日	—	御小納戸	鈴本山城様	状	1	
459	(納められた御子様方の御守りの間違いにつき書状)	9月8日	—	御広間 当番	鈴本山城様	状	1	
460	(金比羅宮へ例年通り神楽奉納の依頼状)	10月9日夜	—	中条帰一	鈴本大和様	状	1	
461	口上覚(祭礼翌日の継祭礼が永久執行となったに際し、天下泰平等祈禱執行の願い)	—	—	—	—	状	1	このたび御通輦があった
462	記(勅使の代拝にあたり行程・神前供えなどの覚)	(明治2年)	1869	—	—	状	1	3月11日に到着
463	触書2通の伝達状)	4月12日	—	小笠原彦太夫	鈴本大和様	状	1	
464	(明日御社参の通知と神納銭の送り状)	7月28日	—	小笠原彦太夫	鈴本大和殿	状	1	
465	(入暑のご機嫌伺いにつき通知)	6月10日	—	小笠原彦太夫	鈴本大和殿	状	1	
466	(布令書の伝達状)	11月20日	—	—	—	状	1	
467	(御部屋様へも祈禱の御守りを差し上げるよう指示)	正月初4日	—	小川幸左衛門	鈴本山城殿	状	1	上部切れ
468	(布令書の伝達状)	3月21日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
469	(面談のため拙宅へお越しを願う書状)	4月27日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
470	(大殿御着城につき代拝の通知と初穂の送り状)	5月10日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
471	(吉田家からの祈禱廻状の写を提出するよう指示)	9月19日	—	小川幸左衛門	鈴本山城殿	状	1	上部切れ
472	(相模が東御殿に御祓を納めるとき拙宅へ寄るよう指示)	3月19日	—	小川幸左衛門	鈴本山城殿	状	1	
473	(土用入のご機嫌伺いにつき通知)	閏5月27日	—	小川幸左衛門	鈴本山城殿	状	1	
474	(奥様男子安産の祝に役宅廻りの通知)	9月22日	—	小川幸左衛門	鈴本山城殿、木田筑後殿	状	1	
475	(例年通り初穂米神納の通知)	11月10日	—	小川幸左	鈴本信厚殿	状	1	
476	(布令書の伝達状)	3月12日	—	小川幸左	鈴本信厚殿	状	1	
477	(権大参事・小参事等宣下の通知)	(明治3)11月13日	1870	小川幸左	鈴本信厚殿	状	1	小川は権少参事
478	(飯米1俵返済の催促状)	7月10日	—	小川幸左	鈴本信厚様	状	1	
479	(社寺司から掌祠と改称された役職任官通知)	2月13日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	

480	(別紙のとおり役名改称の通知)	11月11日	—	小笠原彦太夫	鈴木大和様	状	1	
481	(菊桐紋の使用、三宅氏の由緒につき返答書)	—	—	善助	鈴木様	状	1	
482	(願文の雛形の送り状)	—	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
483	(奥様男子安産にあたり代拝の通知と神納銭送り状)	3月16日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
484	(元朝の神館社への代拝通知と初穂送り状)	12月28日	—	小川幸左衛門	鈴木山城殿	状	1	
485	(奥様御着帯祝の代拝通知と安産祈禱料の送り状)	12月27日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
486	(京都からの布令書の伝達状)	5月17日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
487	(布令書の伝達状)	5月4日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
488	(殿様御参内が無事済むにつき神館社へ代拝の通知と初穂の送り状)	8月23日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
489	(御達の儀があるため拙宅へお越しを願う書状)	6月14日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
490	(明日御社参の通知と初穂の送り状)	3月18日	—	小川幸左衛門	鈴木山城殿	状	1	
491	(継祭礼願いの許可の通知)	8月15日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
492	(拙者が御代拝するとの通知)	5月15日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
493	(大殿御着城の祝に役宅廻りの通知)	5月6日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
494	(山城守の官名禁止につき改名の指示書)	6月朔日	—	小川幸左衛門	鈴木山城殿	状	1	
495	(神送葬祭願の許可の通知)	4月朔日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
496	(晴明御祈禱の神納銭送り状)	5月21日	—	小川幸左衛門	鈴木大和殿	状	1	
497	(大鹿三宅神社・神館社の由来の記載内容につき書状)	2月24日	—	小川幸左衛門	鈴木大和様	状	1	
498	(明日御社参の通知と初穂の送り状)	7月21日	—	小川幸左衛門	鈴木山城殿	状	1	
499	(書類の返却、神田積立帳の記載事項につき書状)	3月13日	—	小川幸左衛門	鈴木大和様	状	1	
500	(殿様御着城につき代拝、役宅廻勤の通知)	6月26日	—	小川幸左衛門	鈴木山城殿	状	1	
501	(明日大殿御代拝の通知と初穂の送り状)	12月19日	—	小川幸左衛門	鈴木山城殿	状	1	



502	(元朝の神館社への代拝通知と初穂送り状)	12月28日	—	小川幸左衛門	鈴本山城殿	状	1	
503	(高市神社の継祭礼許可の通知)	8月13日	—	小川幸左衛門	鈴本山城殿	状	1	
504	(御時勢により初午祭礼に幟・太鼓は見合せよとの通知)	2月2日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
505	(土用入の御機嫌伺いにつき通知)	5月晦日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
506	(依頼した年月日を書取りのうえ御越しを願う書状)	5月14日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	裏面に後筆で「シナ級長 岡象」
507	(今日御社参の通知と神納の送り状)	正月晦日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
508	(明日神館社へ御社参の通知と初穂の送り状)	正月21日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
509	(鎮丸様宮参りが無事済むにつき神館社へ代拝の通知と神納銭の送り状)	4月17日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
510	(殿様御着城につき代拝、役宅廻勤の通知)	正月18日	—	小川幸左衛門	鈴本大和殿	状	1	
511	記(安民講金の受取書)	6月30日	—	磯部久左衛門	磯部宇左衛門様	状	1	
512	(世話してもらった左官、味噌手本、扇面会につき書状)	—	—	—	—	状	1	後欠
513	(封筒のみ)	(明治)1月3日	—	中条支店 為(?)森	勢州神戸南新町 磯部宇右衛門様	他	1	
514	(家族の動静、衣類の必要の有無につき書状)	9月5日	—	いそべ 母	宗吉どの	状	1	衣類は胴着・紺前掛け
515	(『官板四書大全』など5件の送付を求める書付。返答をしない貼紙あり)	—	—	—	—	状	1	
516	(祝い品の送り状。前欠)	4月25日	—	大森伝右衛門	磯部理右衛門様、理助様	状	1	
517	(東京の米価、漁果、奉公の状況などにつき書状)	—	—	—	—	状	1	前・後欠
518	記(ふとん・「しばん」の代金受取書)	5月13日	—	市谷柳町 村井新次郎(印)	—	状	1	
519-1	(「鶴印」などの運賃・若松駄賃覚)	—	—	—	—	状	1	
519-2	(大工・左官の名前覚)	—	—	—	—	状	1	
520	(年賀状および俳句)	庚子6月15日	—	(賀状)磯部□□、(俳句)帰州	—	状	1	
521	(初節句の幟用として金3円送り状)	—	—	—	—	状	1	後欠
522	(昨日の訪問の礼の書付)	6月4日	—	—	—	状	1	

523	(先日御馳走になった礼状)	—	—	きし本 こと浦	いそへ おすみさま	状	1	前欠
524	(利助引取り、京地大変一条につき書状)	8月3日	—	いせや 治郎右衛門、庄助	松島屋 卯右衛門様	状	1	
525	(子息利助の引取りにつき書状)	8月3日	—	伊勢屋 小兵衛	松島屋 宇右衛門様	状	1	
526	(お手元で召し使ってもらっている宗吉をよろしくとの書状)	7月15日	—	松島屋 宇右衛門	高橋治作様	状	1	
527	(宗吉のために送った紋付についての間違いと、その善後策につき書状)	12月11日	—	松島屋 宇右衛門	伊勢屋御店 伝七様	状	1	
528	(青海鯨などの価格につき書状)	7月16日	—	三人	宗吉殿	状	1	薬種か
529	(紋付を羽織と取り違えたため御地で入手するよう指示、小遣につき書状)	12月12日	—	三人	イセ屋様 御店 宗吉殿	状	1	「三人」は家族か
530	(紙砂糖メリケン粉商の山路伊三郎商店からの松島屋あへの仕切り書を貼りあわせたもの)	—	—	—	—	巻	1	
531-1	(氷袋・ビールなどの代金勘定書)	(明治)	—	神戸町新町 吉田屋薬局	松島屋様	状	1	11通を綴じ合わせてある
531-2	記(仕切り書)	大正2年8月	1913	伊勢国河芸郡神戸町 嬉醸造元 野田六左衛門商店	松島や様	状	1	
531-3	記(けいし・封筒など代金覚)	大正3年8月	1914	森田 平七	松島屋様	状	1	
531-4	記(7月分代金覚)	大正3年8月31日	1914	伊勢国神戸町 菓子舗	南新町 松しま屋殿	状	1	
531-5	記(「八月生活」代金覚)	大正3年8月	1914	神戸新町 本盛堂	松島屋様	状	1	
531-6	記(眼鏡・ハットなど代金勘定書)	第1月	—	三重県河芸郡神戸町 万小間物 嫁入道具商 磯部口兵衛	町内 松しまや様	状	1	
531-7	キ(割木など代金覚)	8月	—	柴惣	松しまや様	状	1	
531-8	記(縮腰巻など代金覚)	大正3年8月	1914	古甚呉服店	松島屋様	状	1	
531-9	記(「最上」(?)代金覚)	大正3年8月	1914	長太 甚太口	口新町 松島屋様	状	1	
531-10	記(溜・味噌代金覚)	大正3年8月	1914	伊勢国河芸郡箕田村 醤油醸造 業 太田喜久松商店	松島屋様	状	1	
531-11	領収証(診脈料受取書)	大正3年8月28日	1914	三重県河芸郡玉垣村 私立西尾 病院会計部(印)	磯部利助殿	状	1	
532-1	記(生ぶしなど代金覚。全体を抹消)	(大正3)寅8月	1914	亀金商店	しん町 松しまや店様	状	1	
532-2	キ(玉ねぎなど食品代金覚)	8月	—	八百虎	松しまや様	状	1	
532-3	記(かつを生ぶしなど魚代金覚)	(大正3)寅8月	1914	亀金魚部	しん町 松しま屋様	状	1	

532-4	記(えび・さしみなど代金覚)	(大正3)寅8月	1914	伊勢神戸町 乾物青物魚商 亀金商店	新町 松しま屋様	状	1	
532-5	記(生ぶし・さしみなど代金覚)	(大正3)寅8月	1914	亀金店	三重漆器店御中	状	1	
532-6	記(パン・ビスケット代金覚)	大正3年7月31日	1914	伊勢国神戸町 ○川菓子舗	新町 松しま屋殿	状	1	
532-7	(悴徳太郎を職業につかせたいと相談の書状。後欠)	(欠)	—	(欠)	(欠)	状	1	
532-8	記(家賃・米代・乳代など借金の勘定書)	—	—	—	—	状	1	
532-9	キ(代金覚)	大正3年6月30日	1914	かいや	松島や様	状	1	
532-10	七月中日記(牛乳代金覚)	(大正)	—	河芸郡土師 瓜生牧場	松島や殿	状	1	
532-11	キ(玉子など食品代金覚)	7月31日	—	八百虎	徳治郎様	状	1	
532-12	キ(6月ノ高覚)	大正3年7月31日	1914	かいや	松島や様	状	1	
532-13	記(アルボース・敷島など代金覚)	大正3年7月	1914	土師屋 平七	松島屋様	状	1	
532-14	キ(割木など代金覚)	7月31日	—	柴惣	—	状	1	
532-15	キ(玉ねぎなど食品代金覚)	7月31日	—	八百虎	松しまや様	状	1	
533	(人形の礼の伝言、薄羽織を送る予定、手紙を寄越すべきこと、小遣いなどにつき書状)	3月23日	—	三人	宗吉殿	状	1	
534	(衣類を人に託して送ること、大和五条高取辺での浪士騒動などにつき書状)	(文久3)9月5日	1863	良理□□	宗吉殿	状	1	文久3年の天誅組の乱
535	(詠える羽織の紋などにつき書状)	27日	—	母	宗吉どの	状	1	
536	(錦絵の礼、四日市ほかへの遣い物、来春元服予定のことなどにつき書状)	(文久3)10月27日	1863	三人	宗吉殿	状	1	殿様が山田奉行職についた
537	(倉二郎の塩梅を知らせてほしいこと、家族の動静などにつき書状)	5月12日	—	内 三人	利助殿	状	1	将軍が御地に滞留中
538	(蕪の送付、帯の詠え、家族の動静につき書状)	9月29日	—	磯部内	惣吉殿	状	1	
539	(御改革にあたり年賦金など購入を申し入れる書状)	(明治17)3月27日	1884	天春九十郎	磯部宇右衛門様、磯部久助様	状	1	
540	(訓幼学義・雀林玉露など4件の拝見依頼状。前欠)	—	—	—	—	状	1	
541	御請(15両返納するので証書を返してほしいこと、利息の勘定につき)	18日	—	磯部	岡田様	状	1	
542	(古金他の儀につき返答、宗吉への改名などにつき書状)	6月8日	—	松しまや内 三人	ニイ御店 宗吉殿	状	1	

543-1	記(貸付金の元利勘定書)	7月9日	—	万屋甚六(印「四日市」)	神戸 松島屋卯右衛門殿	状	1	
543-2	キ(みとり代の受取書)	4月3日	—	志賀清	新町 松島屋様	状	1	
543-3	(俵渡し覚)	—	—	—	—	状	1	
543-4	記(貸付金の元利勘定書)	7月29日	—	万屋甚六	神戸 松島屋卯右衛門殿	状	1	
543-5	覚(為替金の受取書)	未12月4日	—	万屋甚七(印「四日市中納屋」)	松島屋宇右衛門様	状	1	
543-6	記(金100円の借用書)	2月15日	—	かじ町 諸藤春松	松島屋様	状	1	
543-7	記(貸付金の元利勘定書)	(明治)15年8月24日	1882	磯部又四郎(印)	磯部宇右衛門様	状	1	
番号欠	(個人情報を含む文書類を収めた紙箱)	—	—	—	—	箱	1	非公開
544	旧河曲郡招魂祭吊祭文日露戦後戦死病死者五十二名(包紙)	明治39年4月25日	1906	—	—	他	1	12点入り
544-1	(招魂祭・追弔会の式次第、忠死者名簿)	(明治39年4月25日)	1906	—	—	綴	1	
544-2	祭詞	明治39年4月25日	1906	(神戸尋常小学校長 井坂光三郎)	—	状	1	包紙入り。神戸町付近小学校長総代
544-3	祭文	(明治39年4月25日)	1906	河芸郡北部聯合各町村長 惣代 神戸町長西尾寿繁	—	状	1	包紙入り
544-4	祭文	(明治39年4月25日)	1906	三重県会議員 杉本清吉	—	状	1	包紙入り
544-5	弔辞	明治39年4月25日	1906	河芸郡北部聯合各町村長 惣代 一ノ宮村長渡辺綱忠	—	状	1	包紙入り
544-6	祭文	明治39年4月25日	1906	神戸警察署長 警部郷田弥九郎	—	状	1	包紙入り
544-7	祭文(推敲入り)	明治39年4月25日	1906	旧河芸郡在住 河芸軍人団員総代 陸軍歩兵中尉従七位山川甚三	—	状	1	包紙入り
544-8	弔辞	明治39年4月25日	1906	伊勢新聞社代理 本田善平	—	状	1	包紙入り
544-9	日露戦役忠魂追弔会 香語	明治39年4月25日	1906	勅願龍光禪寺 賜紫沙門 打車	—	状	1	包紙入り
544-10	(弔辞)	(明治39年4月25日)	1906	(河芸郡長 宮城庄三郎)	—	状	1	
544-11	(箕田村ほかの戦病死者につき回答書綴)	(明治39年4月)	1906	—	—	綴	1	箕田・一ノ宮・若松・飯野・玉垣・木田の各町村から鈴木あて
544-12	明治三十七八戦役忠死人名表	(明治39年)	1906	—	—	状	2	同じもの2枚

545	高市神社神館神明自御行宮殿御神殿尔鎮理定理坐皇太神御遷幸次第并役人行列之次第(包紙)	享保12丁未年7月18日	1727	神主 鬼島玄蕃允・同宮内正、筆者 高野氏元矩	—	巻	1	付箋はがれ多し取扱い注意
546	高市神社神館神明自御行宮殿御神殿尔鎮理定理坐皇太神御遷幸次第并役人行列之次第	享保12丁未年7月18日	1727	神主 鬼島玄蕃允・同宮内正、筆者 高野氏元矩	—	巻	1	付箋糊跡あり
547	神館神明高市神社自御行宮御神殿尔鎮理定理坐御遷幸並役人行列之順記(役割・人名記)	天保2年辛卯6月29日遷宮	1831	—	—	巻	1	端裏「天保二辛卯年」。継目・付箋の糊が弱っている
548	神館神明宮 高市神社 御仮殿与利御本殿尔鎮利定利坐須御遷幸之次第(役割・人名記)	嘉永甲寅年5月22日神幸、23日神祭	1854	従五位下鈴本長門守藤原信道	—	巻	1	寺社奉行 林新左衛門出役。継目糊が弱っている
549	神館神明 飯野神社 高市神社従 御仮殿御本殿鎮定坐御遷幸之順序(役割・人名記)	即位紀元2534年明治7甲戌年9月15日	1874	祠官 浅野清道、祠掌 鈴木信弘、書記 長寿軒 伊藤宗次郎 源賢照	—	巻	1	端裏「明治七年甲戌年」。継目・付箋の糊が弱っている
550	伊勢二所皇太神御鎮座伝記 神記第一(伊勢神宮・撰社の縁起)	寛文12年壬夏5月宿齋館の頃	1672	写)度会郷彦(花押)	—	巻	1	四柙宜度会因彦家の古本を書写
551	御仮殿江御遷坐略式(神館神明・飯野・高市・撰社4社の遷宮役における割・人名記)	明治28年乙未7月11日	1895	—	—	状	1	
552	正遷宮例次	明治13年9月12日	1880	—	—	状	1	
553	御移転正遷宮行例略式	明治33年7月8日	1900	—	—	巻	1	
554-1	正遷宮略式	神武即位紀元2549年明治22年第9月18日	1889	—	—	巻	1	
554-2	役割人名記(554-1に巻き込み)	(明治22年)	1889	—	—	綴	1	
555	飯野村西条鎮座 愛宕社遷御略例式	明治27年甲午4月28日	1894	—	—	状	1	
556	正遷宮略例次	—	—	—	—	状	1	
557	肥田村鎮座 村社宇気比神社正遷宮奉順例次第	明治19年10月1日	1886	—	—	状	1	
558	木田村分村 大谷村 正遷宮例略式	明治19年9月7日	1886	—	—	状	1	桑名鍋屋町 宮師 大工近藤幸助の普請
559	三日市村鎮座氏神 壺番神飯野神社 式番牟山神社 三番高市神社 右遷奉順次役	明治14年9月9日	1881	—	—	状	1	
560	正遷宮略式(鬼太神社・八幡神社)	明治22年9月18日	1889	—	—	状	1	
561	(御附第様入金2両の受取証)	酉3月8日	—	本山 大納戸役人(印)	国府 平井久太郎殿	状	1	
562	(取調べのようす、退寺後の手配などにつき書状)	3月8日朝	—	玉泉寺	二十井 休太郎様	状	4	端に壺・二(後欠)・三の番号あり。中欠か
563	売渡ス新田之事(写)	未極月	—	売主 八左衛門	久太郎殿	状	1	
564	預り申金子之事(山を書入れて1両3匁2分借用)	享保10年巳12月20日	1725	預り主 権左衛門(印)、請人 善八(印)、肝煎 喜左衛門(印)、庄屋 六左衛門(印)	久太郎殿	状	1	

565	借用申米之事(18俵)	延享元年子12月	1744	借り主 利左衛門(印)ほか6名、肝煎 孫左衛門(印)、庄屋 孫之丞(印)	久太郎殿	状	1	
566	借用申米之事(60俵)	寛延2年巳極月	1749	借り主 孫左衛門(印)、請人 喜介(印)ほか1名、肝煎 久太夫(印)、庄屋 市右衛門(印)	久太郎殿	状	1	
567	借用申米之事(19名で53俵)	丑極月25日	—	庄屋 孫之丞(印)、肝煎 孫左衛門(印)、組頭 久太夫(印)	久太郎殿 取次	状	1	勤兵衛ほか19名
568	契約一札之事(買い受け地を小作に出すにあたり、年限がすぎたら元の持ち主が請戻しできるとの一札)	弘化4年未12月	1847	当時地主 新八(印)、契約人 林蔵(印)、組頭 兵蔵	旧太郎殿	状	1	
569	借用申金子之事(5両)	延享3年12月24日	1746	中富田村借主 長兵衛(印)	国府村 久太郎殿	状	1	
570	預り申米之事(90俵)	寛保4年子2月25日	1744	米預り主 四五兵衛(印)ほか5名、肝煎 戸平(印)、庄屋 孫之丞(印)	久太郎殿	状	1	
571	借用申金之事(2両)	享保2年酉12月13日	1717	借り主 喜助(印)、請人 甚兵衛(印)、証人組頭 善八良(印)	久太郎殿	状	1	
572	永代売渡シ申田地之事(下畑を書き入れ)	享保11年午12月28日	1726	売主 所右衛門(印)、肝煎 六郎右衛門(印)	善兵衛殿	状	1	
573	預り申米之事(30俵)	寛保3年亥11月	1743	弥野右衛門(印)、久兵衛(印)、森覚左衛門(印)	取次 久太郎殿	状	1	
574	売渡申田地之事(上田5カ所)	寛政6年寅12月	1794	田地売主 伊左衛門、請人 伊右衛門、組頭 清左衛門、肝煎 弥吉、庄屋 新八	太吉殿	状	1	
575	覚(白子勘定金不足分として4両の借用書)	享保20年卯4月	1735	白子領赤部村 新平(印)	国府村 久太郎殿	状	1	
576	一札之事(田地買い入れと、旧所蔵者の請戻し保証)	宝暦7丑3月	1757	太郎治、太郎左衛門(印)	久太郎殿	状	1	
577	借用申金子事(下田をI書入れて1両)	文化13子3月	1816	かり主 五兵衛(印)、請人 伊左衛門(印)	久太郎殿	状	1	
578	覚(粃50俵を質物として米20俵の借用書)	丑極月28日	—	借り主 孫左衛門(印)ほか5名、庄屋 孫之丞(印)	久太郎殿 取次	状	1	
579	請状之事(未進皆済のため5年季奉公、給金3両)	寛保2年戌2月	1742	中富田村奉公人親 孫四郎(印)、請人 源七(印)、組頭 太郎兵衛(印)、肝煎 庄三郎(印)	国府村 久太郎殿	状	1	

580	富士山松木代延金証文之事(半金の納付延期が認められるにあたり。買主 宗太郎の請書を貼りつき)	明和7年寅2月24日	1770	国府村買主 宗太郎(印)、請人 久太郎(印)、庄屋 源治(印)	岩森村庄屋 新左衛門殿	状	1	岩森村富士山の松木代金31両2歩と銀1匁7分。作成のうち庄屋は印を抹消
581	売渡申新開林之事	延享2年丑6月	1745	売主 三良平(印)、請人肝煎 吉左衛門(印)、庄屋 庄左衛門(印)	久太郎殿	状	1	
582	売申田地之事(新田・城山の売渡し。加地子につき請作をする孫左衛門から久太郎あての請書も書き添え)	元文5年申12月21日	1740	売主 源左衛門(印)、口入肝煎 孫左衛門(印)、庄屋 孫之丞(印)	久太郎殿	状	1	
583	預り申米之事(要泉寺仏供米のうちから5俵借用)	元文4年極月	1739	かり主 五右衛門	取次 久太郎殿	状	1	破損激しい
584	永代売渡シ申田地之事(丸竹新田を2両2分で)	享保11年午極月25日	1726	田地支配人 弥野右衛門(印)ほか2名、庄屋 佐右衛門(印)	久太郎殿	状	1	
585	借用申金子之事(年賦金割合の返済のため3名で合計4両余。八野村庄屋 貞蔵・肝煎 源八から国府村庄屋あて請書を書き継ぎ)	安永元年辰12月	1772	八野村 茂兵衛(印)・清左衛門(印)・市郎右衛門(印)	国府村 御役人衆中	状	1	
586	預り申米之事(要泉寺祠堂米から5俵)	寛保4年子2月25日	1744	預り主 林兵衛(印)ほか1名、請人 甚四郎(印)ほか1名、肝煎 孫左衛門(印)、庄屋 孫之丞(印)	久太郎殿	状	1	5
587	借用申米之事(11石余の村借り)	安永4年未3月	1775	国府村庄屋 八右衛門・久太郎(印)	八野村庄屋 貞蔵殿	状	1	
588	借用申金子之事(11両2分。田地を書き入れ)	正徳元卯12月20日	1711	売主 助五郎(印)、肝煎 半兵衛(印)、庄屋 甚六(印)	久太郎殿	状	1	
589	借用申金子之事(宮下上田を書き入れて1両2分借用)	元禄5年申12月19日	1692	かり主 惣三郎(印)、口入 久太郎(印)	—	状	1	
590	借用申米之事(7名で21俵)	宝暦9年卯11月	1759	請樋人(印) 太郎左衛門(印)、肝煎 六左衛門(印)、庄屋 源左衛門(印)	口入 久太郎殿	状	1	
591	借用申金子之事(本家を書き入れて2両2分)	天明元年丑12月	1781	借り主 吉左衛門、請人 清左衛門、庄屋 久太郎	御役人衆中	状	1	
592	借用申米之事(米28俵)	元文5年申11月	1740	久太夫(印)ほか6名	久太郎殿	状	1	
593	(村中未進方のため米35俵の村借り証文。前欠)	元文5年申4月	1740	庄屋 覚左衛門(印)ほか2名、肝煎 安左衛門(印)ほか1名	久太郎殿	状	1	

594	借用申金子之事(3人で2両2分)	延享3年寅3月	1746	かり主 太郎左衛門(印)ほか2名、肝煎請人 吉左衛門(印)、庄屋 庄右衛門(印)	久太郎殿	状	1	
595	預り申金子之事(7両1分2朱の借用証文)	延享3年寅5月20日	1746	質物預り主 孫左衛門(印)ほか3名、組頭 久太夫(印)、庄屋 孫之丞(印)	久太郎殿	状	1	
596	借用申金子之事(5両)	寛保元年辰12月20日	1741	中富田村借主 長兵衛(印)、請人 治左衛門(印)	国府村 久太郎殿	状	1	寛保元年は酉
597	売申新開林之事(明楽寺の1反1畝を1両で)	元文5年申2月	1740	売主 孫左衛門(印)、証人 久太夫(印)	六左衛門殿	状	1	
598	借用申金子之事(三郎平の未進分引受のため5両借用)	元文3年午12月11日	1738	借り主 吉左衛門(印)、庄屋 六左衛門(印)、肝煎 喜左衛門(印)	久太郎殿	状	1	
599	借用申金子之事(半沢新田・富士山新田を書き入れて5両借用)	元文5年申3月	1740	かり主 四郎兵衛(印)、証人 太郎作(印)、肝煎 弥六(印)	孫之丞殿 口入	状	1	
600	借用申金子之事(田地を書き入れて10両)	天明5年巳12月	1785	かり主 久太郎(印)、請人 新八(印)、肝煎 吉左衛門(印)	要泉寺様	状	1	
601	借用申金子之事(新開林を書き入れて3分)	寛延2年巳12月	1749	金子借り主 孫左衛門(印)、請人加印 久太夫(印)	久太郎殿	状	1	
602	永代売渡シ下畑新畑之事(3筆を1両2分2朱で)	正徳5年未4月23日	1715	うり主 平左衛門(印)、肝煎 弥三郎(印)、庄屋 六左衛門(印)	久太郎殿	状	1	
603	借用申金子之事(家財を質物として5両)	元文3年午11月	1738	かり主 三郎平(印)、請人 吉左衛門(印)、庄屋 六左衛門(印)、肝煎 喜左衛門(印)	久太郎殿	状	1	
604	預り申米之事(要泉寺祠堂米6俵借用)	寛延3年午12月13日	1750	預り主 喜助(印)ほか2名、請人 甚四郎(印)	要泉寺祠堂米取次 伊三郎殿	状	1	



605	永代売渡シ申新開林之事(質物として書き入っていた新開林の質流しにつき)	宝暦6年子3月	1756	林売主 権三郎(印)、請人 与次平(印)、庄屋 与惣左衛門(印)	久太郎殿	状	1	
606	借用申金子之事(新島を書き入れて1両1分)	元禄15年午11月20日	1702	借り主 清左衛門(印)、請人 次兵衛(印)、きも入 三郎兵衛(印)	久太郎(ママ)	状	1	
607	借用申金子之事(6両)	延享2年丑閏12月25日	1745	中富田村借主 長兵衛(印)	国府村 久太郎殿	状	1	
608	借用申米之事(田を書き入れて5俵)	寛保4年子2月11日	1744	米借り主 喜助(印)、組頭請人 善兵衛(印)、肝煎 孫左衛門(印)、庄屋 孫之丞(印)	久太郎殿	状	1	
609	借用申米之事(田地を書き入れて4俵)	寛延2年巳極月	1749	かり主 林兵衛(印)、請人 孫左衛門(印)ほか1名、肝煎 久太夫(印)、庄屋 市右衛門(印)	久太郎殿	状	1	
610	預り申米之事(10俵)	延享元年子11月	1744	米預り主 利左衛門(印)ほか4名、肝煎 孫左衛門(印)、庄屋 孫之丞(印)	取次 久太郎殿	状	1	
611	借用申米之事(利左衛門ほか14名で63俵借用)	寛延2年巳極月	1749	借り人組 連中、肝煎 久太夫(印)、庄屋 市右衛門(印)	久太郎殿	状	1	借り主は冒頭の借用内訳部分に捺印
612	覚(御伝馬助成金利の当年分5両余の受取)	安永9年子11月	1780	坂下宿庄屋 野崎加左衛門(印)	国府村 御庄屋中	状	1	
613	覚(御伝馬助成金利の当年分約9両の受取)	(酉)11月25日	—	庄野宿 沢田兵左衛門(印)	国府村 御庄屋中	状	1	
614	借用申金子之事(1両1分借用)	宝永5年子5月11日	1708	借主 源五郎(印)、請人 庄次郎(印)	久太郎殿	状	1	
615	預り申金子之事(30両)	安永6年酉12月	1777	預り主 森覚左衛門(印)、加印 平井人太郎(印)	宮崎弥兵衛殿	状	1	
616	奉公人請状之事(12歳の悴を8年半の奉公に出す)	文化8年未7月	1811	奉公人親 瀬右衛門(印)、受負人 銀助(印)、組合受人 栄助(印)、組頭 林蔵(印)	久太郎殿	状	1	
617	覚(巳より戌までの未進米高の覚)	未12月	—	国府村 久太郎(印)	—	状	1	(617から620までひとまとまり)
618	覚(未年年貢皆済証文。3035俵8升9合)	申6月	—	伊藤直右衛門(印)、鈴江四郎右衛門	国府村 庄屋中	状	1	
619	国府村(癸巳砂入田の3ヵ年の免率)	申7月	—	—	—	状	1	

620	覚(申年年貢皆済証文。3070俵2斗8升9合)	酉6月	—	由良溪右衛門、増田与兵衛(印)	国府村 庄屋中	状	1	
621	覚(石薬師宿本陣修復金として国府村が借りた金の元利受取証)	安永7年戌12月	1778	石薬師宿問屋 藺田庄兵衛(印)・岡田市左衛門(印)	国府村 庄屋中	状	1	40両
622-1	「疎影」(包紙のみ)	—	—	いせつよいよ町 御すり物所 はんぎし源兵衛	—	他	1	
622-2	「通」(包紙のみ)	—	—	久之丞、観信房	—	他	1	
622-3	「入用証文 旧太郎持所」(包紙のみ)	—	—	—	—	他	1	
622-4	(土地のメモ)	—	—	—	—	他	2	
623-1	「夕時鳥 たくれに…」(短歌)	—	—	七才 信綱(佐々木信綱)	—	短冊	1	
623-2	「糴花 雀の子あさるそものこゝめ花…」(短歌)	—	—	八才 信綱(佐々木信綱)	—	短冊	1	
624	家財売立帳(年貢・講などの分に本家・土蔵などを引き当てる。横帳の断簡)	文化9申9月	1812	—	—	折	3	裏打ち紙のメクリ
625-1	未進書抜控之帳控(横帳の断簡)	寛政5丑4月	1793	—	—	折	9	
625-2	頼母子口数割合覚帳(横帳の断簡)	文化元子3月	1804	催家本 世話人	—	折	4	表紙と中味の文書は不一致なので一括する
625-3	秣場年貢之帳(横帳の断簡)	宝暦10辰年11月	1760	会下村 蔵城八兵衛	—	折	1括	
626	勢州若松番附(番号リスト。富くじか?木版摺り)	申7月2日会	—	—	—	他	1括	「申1787」などの番号
627	(鈴鹿郡会議案綴。予算、道路橋梁費など)	大正2年2月	1913	—	—	豎	1	
628-1	御請書(旧神戸藩からの拝借金6円の返済につき)	明治12年7月31日	1879	河曲郡神戸本多町 借主 永岡重光(印)、保証人 東坂友次(印)	三重県令岩村定高殿	綴	1	古証文とともに綴じ合わせ
628-2	建物売渡し証券(土蔵2棟)	明治23年4月12日	1890	伊勢国河曲郡神戸町大字神戸 堅町 売渡人 上野文次郎(印)	同国河曲郡神戸町大字神戸 本多町 東坂友次殿	豎	1	
628-3	保管証(孔夫氏に係る剰除金を4円づつ8人で預かる証文)	明治28年11月	1895	高橋利礼(印)、杉村信(印)、 安彦貞正(印)ほか5名	大口保定殿、高橋利礼殿、 小谷正厚殿ほか6名	状	1	「連印証書 壱通」と書いた包紙入り

628-4	明治十六年七月二十八日建家売渡(付図)	明治16年7月28日	1883	三重県伊勢国河曲郡神戸本多町 建物売渡人 戸間正誼(印)	—	状	1	
628-5	地目変換届(断簡)	明治43年	1910	—	津稅務署長二宮虎三郎殿	状	2	
628-6	委任状(建物売買登記請求事件につき)	—	—	河曲郡神戸町大字神戸本多町 東坂友次	—	状	1	
628-7	証(畑地売渡証。戸長清水精一郎の奥書きあり)	明治20年1月11日	1887	河曲郡神戸西町 売渡人 近藤達(印)、保証人 牧野清七(印)	東坂友次殿	状	1	
628-9	開墾地成功届	明治37年12月10日	1904	河芸郡栗真村大字中山 川口	白子稅務署長鬼頭鑑太郎殿	状	1	
628-10	納稅管理人届(堀秀太郎を管理人とする)	(明治35年頃)	1902	神戸町大字本多町 東坂友次(印)	河芸郡長宮城龍三郎様	状	1	
628-11	約定証(売却家屋の敷地の借地料につき)	明治30年2月28日	1897	河芸郡神戸町大字本多町 貸渡人(欠)	瀧信四郎殿 支配人山鹿三之助殿	状	1	
628-12	建物売渡証券(神戸本多町所在の木造瓦葺平屋土蔵1棟売却証券雛形)	明治30年2月	1897	河芸郡神戸町大字神戸本多町 東坂友次	瀧信四郎殿	状	1	
628-13	(売却建物の登記願い下書)	明治30年2月	1897	河芸郡神戸町大字神戸本多町 売渡人 東坂友次	—	状	1	
628-14	約定証(売却建物の地所につき。下書)	—	—	—	—	状	1	
628-15	(地目変換地の地価修正指令)	明治43年12月11日	1910	津稅務署長稅務官二宮虎三郎(印)	河芸郡神戸町大字神戸本多町 東坂友次	状	1	
628-16	地所売渡証	明治37年4月13日	1904	河芸郡神戸町大字神戸本多町 売主 町長 伊藤宗九郎(印)	河芸郡神戸町大字神戸本多町 東坂友次殿	豎	1	
628-17	(日清戦争への献納金20銭の褒状)	明治30年6月1日	1897	三重県知事正四位勲四等 田辺輝実(印)	河芸郡神戸町 永岡敬三郎	状	1	
628-19	建家売渡証(戸長 神谷直与の奥書あり)	明治16年7月31日	1883	戸間正誼(印)	東坂友次殿	状	1	
628-20	地所売渡証(宅地。戸長 神谷直与の奥書あり)	明治16年7月31日	1883	中条正義(印)	東坂友次殿	状	1	
628-21	宅地借受証書	明治23年4月13日	1890	河芸郡神戸町大字神戸本多町 東坂友次(印)	河芸郡神戸町大字神戸堅町 上野文次郎殿	状	1	
628-22	土地売渡証(郡村宅地)	明治41年6月9日	1908	河芸郡神戸町大字神戸堅町 売主 上野文次郎(印)	同郡神戸町大字神戸本多町 東坂友次殿	状	1	
629	大正二年度三重県鈴鹿郡歳入歳出追加予算書	大正2年11月5日提出	1913	三重県鈴鹿郡長 須田松太郎	—	豎	1	印刷

630	三重県立神戸中学校一覧(学校概要。図面付き)	昭和7年度	1932	—	—	他	1	印刷
631	第一回神戸高等学校文化祭プログラム	昭和25年11月18・19日	1950	三重県神戸高等学校	—	他	1	印刷
632	授業料領収証(大正4年度分、月ごとに2円の領収)	大正4年度	1915	三重県立第二中学校長田村左衛士(印)	渡辺所左衛門	他	1	(四日市高校)
633-1-1	昭和十一年度 神戸商工会々会報	(昭和12年)	1937	神戸商工会	—	洋	1	
633-1-2	防空訓練二関スル件(通知)	—	—	総代	各位殿	状	1	ガリ版刷、633-1-1にはさんである
633-2	昭和十二年度 会報	(昭和13年)	1938	神戸商工会	—	洋	1	
634	(応召者・入営者歓送の通知)	昭和19年8月27日	1944	神戸町内会联合会	—	状	1	ガリ版刷
635	勢州石薬師略縁起	—	—	高富山瑠璃光院	—	豎	1	木版摺
636	鈴鹿市立高等女学校一覧(学校概要。図面付き)	昭和18年4月30日	1943	—	—	他	1	印刷
637-1	(服部卯平に納める小作料関係書類綴)	(明治19年)	1886	—	—	横	1	
637-2	(笹島九兵衛あて年賀・小作米納入など書状貼りあわせ)	—	—	—	—	他	4	
637-3	(石田喜市と協議のうえよろしく願ひするとの書状)	4月16日	—	岡田平内(印)	大岡寺村 服部太十殿	状	1	
637-4	(藤江殿を遣わすよう依頼の書状)	10月16日	—	市川や	服部おいはさま	状	1	撫子の藍摺絵封筒入り
637-5	(貸金の差継ぎにつき書状)	7月24日	—	打田弥四郎	服部宇左衛門様	状	1	包紙入り
637-6	(葬式のため予定延期の書状)	9月13日	—	亀山ニテ 岡田平内	服部太一様	状	1	
637-7	(利息金につき書状)	明治15年2月17日	1882	□□ 岩田	大岡寺村 服部太十殿	状	1	
637-8	(拝借のカバンほかにつき書状)	11月28日	—	紀平硯太郎	服部宇平様	状	1	
638-1	改正反別地位表 甲斐村(袋)	明治9年5月	1876	—	—	他	1	
638-2	田畑宅地撰分表 第六大区三之小区 甲斐邨	明治9年1月	1876	代議人 前川庄六(印)ほか2名、用係 北川清蔵(印)ほか1名	—	豎	1	
638-3	第六大区三之小区甲斐村堤外流作田方地位表	明治9年6月4日	1876	代議人 前川庄六(印)ほか2名、用係 勝田嘉平(印)ほか1名	—	状	1	

638-4	第六大区三之小区甲斐村畠方地位撰分表	明治9年6月3日	1876	代議人 前川庄六(印)ほか2名、用係 北川清蔵(印)ほか1名	—	状	1	
638-5	(田畑の反当り収穫表)	—	—	—	—	状	1	
638-6	(甲斐村などの村別ランク付け表)	—	—	—	—	状	1	
639	改正反別地押番号帳之写 第六大区五之小区伊勢国鈴鹿郡太岡寺 服部太一分	明治8年7月	1875	—	—	横	1	
640	村々庄屋肝煎組頭百姓代名前帳	明治5年壬申正月	1872	服部宇平控	—	横	1	
641	(融通講など講会簿断簡)	(安政～明治)	—	—	—	横	1	
642	記(数か村組合の代表者・鉄砲の所持者一覧など)	—	—	服部控	—	横	1	
643-1	(明治10年・16年の川合村借用金証文写)	—	—	—	—	縦	1	
643-2	乍憚口上書(旧大庄屋役場から川合村への貸付金の件につき)	明治16年10月2日	1883	磯部分四郎	市川誠蔵様、保田弥八郎様、大久保二郎様	縦	1	
643-3	売渡申松林之事	天明8年申3月	1788	落針村売主 平八、一家請人 伝九郎、組頭 治兵衛、肝煎 富次郎、庄屋 弥右衛門	太岡寺村 卯左衛門殿	状	1	
643-4	一札(中田・藪を書き入れて20両借用。庄屋 草川武治郎の奥書あり)	慶応4年辰3月	1868	落針村借用主 平吉、親類請人 平右衛門、世話人 瀬兵衛、組頭 半治郎	服部宇左衛門殿	縦	1	
644-1	覚(鉄砲玉目の届書)	—	—	—	—	状	1	
644-2	酒御通(表紙のみ)	卯正月	—	白子屋 甚八(印「亀山方町」)	太岡寺村 御役人中様	他	1	
644-3	醤油之通(表紙のみ)	巳正月	—	岩木や 利兵衛	落合清兵衛様	他	1	
645-1	(陸運会社につき内務省布達の通達)	明治8年5月31日	1875	度会県権令久保断三	—	状	1	印刷
645-2	記(高反別の届雛形。安濃津県へ引渡か)	壬申2月	1872	—	庄屋、肝煎	状	1	
645-3	証券印紙売捌人村割左二(通達)	明治6年6月5日	1873	事務所	小野ほか11村 副戸長総代中	状	1	
645-4	(太岡寺村村会議員当選通知)	明治17年6月28日	1884	戸長役場(印)	太岡寺村 服部太一	状	1	
646	上り地田畑高引分ヶ帳 柳村	慶応2年丙寅3月	1866	—	—	横	1	(名寄形式)
647	(順見使のルート道のりの記録。津から河曲郡を一巡り)	午3月書上	—	—	—	横	1	津藩の巡見か

648	合祀神社御棟札之控	大正3年2月28日	1914	河藝郡玉垣村大字柳村	—	豎	1	
649-1	龍ヶ池堤修覆奉願上候覚(修復料の下賜願い)	明和8卯年9月	1771	伊舟村願主藤右衛門義 寿計意	—	豎	1	
649-2	(龍ヶ池周辺絵図)	(明和8)	1771	—	—	他	1	
650-1	(川曲郡・三重郡の鷹場の村付、鶴・雁・鴨・白鳥等の数、当番・番人の名前と給物の覚書断簡)	—	—	—	—	他	1括	下張り類につき1括
650-2	(餌付糶高、御鳥見出扶持、鶴見番賃米につき書状断簡)	—	—	—	—	状	1	後欠。正徳以降
650-3	(白子領と川曲郡の鶴餌付け餌糶の高が相違することにつき書状断簡)	—	—	松本甚五左衛門	土生広右衛門様	状	1	後欠
651-1	(鶴献上のため鷹3居と鷹匠の巡村先触)	12月18日	—	御鳥見中	江島・原永ほか7カ村 庄屋中	状	1	下張
651-2	(鶴献上のため鷹3居と鷹匠の巡村先触)	12月18日	—	御鳥見中	北長太ほか16カ村 庄屋中	状	1	下張
651-3	(鶴献上のため鷹3居と鷹匠の巡村にあたり、汲川原村で昼休宿の依頼状。北長太ほか14カ村あて先触を書き継ぎ)	12月15日	—	御鳥見中	神戸御領 大庄屋中	状	1	下張
651-4	(献上のため鶴捉飼を行うので犬猫などを出さないよう触れ。中欠)	12月	—	御鳥見中	柳・肥田・矢橋・須賀ほか村々庄屋中	状	1	下張
651-5	覚(21日の巡村予定。南川村から日永村まで)	—	—	—	—	状	1	下張
651-6	(昼休所を松本村から中川原村へ変更したための21日の順路変更につき書状)	12月19日	—	泊り詰 仲間	後藤衛門輔様、御仲間衆様	状	1	下張
651-7	(御場廻りの日程に変更なきか尋ね状)	12月13日	—	泊り詰 仲間	後藤衛門輔様、御仲間衆様	状	1	下張
651-8	(鶴献上のため鷹3居と鷹匠の巡村にあたり、南若松村で昼休宿の依頼状)	12月15日	—	御鳥見中	田中小平治殿	状	1	下張。651-9と同じ切紙継に書かれている
651-9	(鶴献上のため鷹3居と鷹匠の巡村にあたり小休宿依頼状)	12月15日	—	御鳥見中	石薬師 庄屋中	状	1	下張。651-8と同じ切紙継に書かれている
651-10	(鶴捉飼の御場廻りにつき書状)	12月7日	—	小川専左衛門、野口七太夫	後藤衛門輔様、笠井安四郎様	状	1	下張。野口七太夫は鷹匠
651-11	(御場廻りの出立・泊など予定の通知)	12月9日	—	野口七太夫	後藤衛門輔様、坂左馬助様	状	1	下張
652-1	(南若松村の鷹休め宿で失墜があったため下賜金願書。先例も書き添えてある)	(天保14)正月	1843	野口七太夫	—	状	1	貼紙あり
652-2	天保十三寅冬就御鷹御用上野へ置手形左之通り(増扶持の受取など)	(天保13年)	1842	後藤衛門輔	—	状	1	
653-1	(川曲郡の御荷い持人足貨米について返答書。元和7年以来の経過についても触れている。後欠)	(欠)	—	川曲郡 御鳥見	(欠)	状	1	
653-2	(同上下書)	—	—	—	—	状	1	

653-3	(同上控。大庄屋奥印予定)	—	—	川曲郡 御鳥見	—	状	1	653-1よりも人足の遣い方が詳しい
654-1	(鳥見組頭の野口彦次郎らの巡村にあたり泊宿の請け合い状)	3月9日	—	泊村庄屋 与右衛門	後藤衛門輔様	状	1	
654-2	(野口彦次郎の小休の請け合い状)	3月9日	—	平井七郎兵衛、田中善助	後藤衛門輔様、坂半右衛門様	状	1	
654-3	(御鳥見の止宿滞在につき通知)	3月9日	—	御鳥見中	泊り村 庄屋中	状	1	上封には「泊り村庄屋 清水三右衛門殿 上野新吾・後藤衛門輔」とあったとメモがある
654-4	(出立の先触れ差し立ての請け合いと、出迎えの人数につき尋ねる書状)	3月10日	—	栗本道之丞	長太 御仲間衆様	状	1	
654-5	(野口彦次郎の小休につき請け合い状)	3月10日夕	—	町年寄共	御鳥見中様	状	1	
654-6	(組頭野口彦次郎の巡村の先触れ)	3月10日	—	御鳥見中	江島ほか13カ村 庄屋中	状	1	横に真っ二つ
654-7	(野口彦次郎出立の延引につき通知)	3月9日	—	御鳥見中	玉垣・打越 庄屋中	状	1	
654-8	覚(御帰国の通輿にあたり先格通り御目見え願)	亥3月	—	三重郡 鶴飼付役共	—	状	1	坂甚左衛門ほか8名
654-9	(宿の儀、一両日延引の通知)	3月9日	—	坂半右衛門、後藤衛門輔	泊り村庄屋 清水三右衛門殿	状	1	654-10と同じ切紙継に書かれている
654-10	(野口彦次郎出立延引につき小休も延引の通知)	3月9日	—	御鳥見中	神戸 町年寄中	状	1	654-9と同じ切紙継に書かれている
654-11	(江島は見合わせるので先触れ取戻しの依頼状)	3月9日	—	長太 仲間	栗本道之丞様			654-12と同じ切紙継に書かれている
654-12	(野口彦次郎出立延引につき出迎え見合わせの通知)	3月9日	—	後藤司馬、坂半右衛門	(欠)	状	1	654-11と同じ切紙継に書かれている
654-13	(用談のため拙宅へおいでを願う書状)	3月8日夜	—	後藤衛門輔	富田彦十郎殿	状	1	
654-14	(野口彦次郎の昼支度依頼状)	3月9日	—	御鳥見中	(欠)	状	1	
654-15	覚(野口彦次郎らの到着日・人数・宿銭支払方法)	—	—	—	—	状	1	松坂田丸御鳥見・白子川曲郡御鳥見らも来る
654-16	(野口彦次郎らの到着日・人数・宿銭支払方法の覚)	—	—	—	—	状	1	
654-17	(組頭・三重郡餌付役人らへの菓子料などの覚)	—	—	—	—	状	1	
654-18	(野口彦次郎出立の延引につき通知断簡。後欠)	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	状	1	
654-19	(野口七太夫出立予定の通知断簡。後欠)	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	状	1	
655	(鳥見役人間の連絡・鷹場の拝借に関する通知など種々の断簡)	—	—	—	—	他	1括	紙のヨワリが激しく、取り扱いは要注意
656-1	(殿様の鷹野予定と鳥餌付役の御目見につき書状)	戌10月27日	—	野口彦右衛門	川曲郡 御鳥見中	状	1	

656-2	(殿様の鷹野において御目見の手順につき野口彦右衛門の書状の伝達状)	亥閏10月朔日	—	川曲郡 御鳥見中	野崎藤左衛門様、伊藤兵左衛門様ほか11名	状	1	宛名部分に欠損あり、人数は不確定
657-1	(三重郡馳出村・海山道で狂言見世物を興行することの願い出手続きにつき書状)	(天保4)2月29日	1833	清水周吉	川曲郡 御仲間口様	状	1	後欠。端裏「天保四巳 一」
657-2	(馳出村金光寺開帳にともない狂言興行することの手続きにつき書状)	(天保4)3月朔日	1833	千種甚兵衛	清水周吉様	状	1	中欠。端裏「天保四巳 二」
657-3	(馳出村と海山道の開帳の催し内容と、このたびは特に手続きをしないことを知らせる書状)	(天保4)3月5日	1833	清水周吉	川曲郡 御仲間衆様	状	1	後欠。端裏「天保四巳 三」
657-4	(江島村菓子の儀、数馬一条につき書状)	2月24日	—	清水大助	川曲郡 御仲間衆様	状	1	
658	乍恐口上(若松村・柳村・北長太村・林崎村の鶴代見分のようすにつき届)	12月	—	川曲郡 御鳥見	—	状	1	川曲郡の各鶴飼付場の鶴飛来状況の調査
659	(飼付人に栗本方を差加える件について相談のためお越しを願う書状)	9月10日	—	清水吉兵衛	川曲郡 御仲間衆様	状	1	
660	(大小名の火消装束・供の者の装束につき触書断簡)	10月	—	—	—	状	2	中欠か
661	(吟味事項の付箋)	—	—	—	—	他	1	五カ村の処遇について
662	(博奕禁止の法度など断簡)	—	—	—	—	他	3	
663	(書状断簡)	(天保5年頃)	—	—	—	他	1括	鳥見役人間の情報通信か
664	(殿様国御帰国の出迎えの先例記録につき問合せ状)	3月朔日	—	野口彦兵衛、大林五一郎	川曲郡 御鳥見中様	状	1	
665-1	口上(神戸町名主一件・鳩一条の解決内容につき)	12月27日	—	山崎九郎兵衛	御鳥見衆中	状	1	
665-2	(新規町年寄・名主申しつけにつき書状)	9月16日	—	長太 御鳥見中	山崎九郎兵衛様	状	1	
665-3	(十日市名主の多吉の伺う都合につき書状)	10月26日	—	山崎九郎兵衛	後藤衛門輔様	状	1	
665-4	(城下町方名主の御館入の承知を求める書状)	11月6日	—	鈴木半之丞正道(花押)	野口彦左衛門様	状	1	
665-5	(神戸町一件解決につき印紙送付状)	6月16日	—	川曲郡 御鳥見中	野口彦左衛門様、小川専左衛門様	状	1	
665-6	(神戸町一件解決につき礼状)	12月7日	—	川曲郡 御鳥見中	野口彦左衛門様、小川専左衛門様	状	1	
665-7	(町名主一件解決と今後の件につき書状)	4月20日	—	河合善右衛門	山崎九郎兵衛様	状	1	
665-8	(一条につきとりなしを願う書状)	2月8日	—	河合善右衛門	山崎九郎兵衛様	状	1	神戸町名主一件か
665-9	(山九の口上書の順達書)	12月27日	—	栗本正左衛門	御仲間衆様	状	1	
665-10	(鳩の儀内済、御苦勞筋出来などにつき書状。前欠)	3月22日	—	山崎九郎兵衛	後藤衛門輔様	状	1	



665-11	(神戸町御朱印についての返答につき書付。前欠)	—	—	—	—	状	1	年貢免除の朱印状か
665-12	(神戸へ駆合の儀につき書状)	4月13日	—	長太 御鳥見中	山崎九郎兵衛様	状	1	
665-13	(神戸町名主の出入の許可につき問答の書付断簡)	—	—	—	—	状	1	寒暑以外のお出入り
665-14	(鳩の儀、神戸名主のお出入り許可につき書付断簡)	—	—	—	—	状	1	天保5年以降。紀州藩へお出入りか
665-15	(代官所へのお出会いを頼む書状。前欠)	12月19日	—	川 仲間	清水大助様	状	1	
665-16	(出坂した後の来状につき書状。後欠)	—	—	—	—	状	1	
665-17	(西林崎村庄屋方へお出を願うこと、真雁のことにつき書状。前欠)	12月13日	—	後藤衛門輔	清水田吉様、御仲間衆様	状	1	
665-18	(神戸名主一件・鳩の事解決につき書状)	12月28日	—	—	—	状	1	
665-19	(神戸名主がまかり出る日限につき書状。後欠)	—	—	栗本正左衛門	後藤衛門輔様、御仲間衆様	状	1	
665-20	(藤三郎と村役人が行く日程につき書状。後欠)	—	—	三十郎	半右衛門様	状	1	
665-21	(書状断簡)					他	9	
666	(強震後の中将様の様子につき書状)	10月10日	—	立石喜太夫	上野次郎吉殿・斎藤寛兵衛殿ほか3名	状	1	御機嫌よくお過ごしである
667	(御鷹休メ宿への御金下付につき書状)	正月20日	—	川曲郡 御鳥見	野口七太夫様、小川専左衛門様	状	1	
668	覚(他領への野廻り先廻り中止を命じられたにあたり)	(戌11月)	—	—	—	状	1	途中までか
669	(野村への出会依頼状)	12月7日夜	—	笠井安次郎	後藤衛門輔様	状	1	
670	(江島一件につき白子白子屋へ出会依頼状)	正月18日	—	川 仲間	清水大助様、宮崎忠右衛門様	状	1	
671	(組頭からの来状の伝達につき書状)	3月10日	—	白子 仲間	川曲郡 御仲間衆様	状	1	本文末尾には上野新吾の名前あり
672	(御鳥見の中尾新左衛門ほか2名の悴の御場見習い許可につき書状写。後欠)	—	—	大沢次郎右衛門	—	状	1	端裏「頭衆御状 うつし」
673-1	(勢州奉行からの来状の伝達につき書状)	10月25日	—	野口彦左衛門	—	状	1	
673-2	(組頭からの来状の伝達につき書状)	8月24日	—	別府友次郎(印)	両郡 御仲間衆様	状	1	
674	乍恐口上(鶴代不都合の詫び状)	12月	—	川曲郡 御鳥見	—	状	1	
675	(鶴の飛来状況を知らせる書状か)	11月晦日	—	—	—	状	1	田丸表へも届ける

676	(貴家で出会の日取りにつき書状)	12月朔日	—	後藤衛門輔	杉野奥之丞様	状	1	
677	(鶴捉飼の日限を致し方なく承諾するにつき書状)	12月13日	—	野口七太夫	後藤衛門輔様、栗本正左衛門様	状	1	
678	(献上・進上用の鶴につき書状)	12月26日	—	小川専左衛門	川曲郡 御鳥見中	状	※	2枚で1通か？※員数2
679	(書状の末尾部分)	6月15日	—	土生広右衛門俊清(花押)	上川庄蔵様、中尾新左衛門様、堀孫六様ほか14名	状	1	
680	(去冬地下・去暮売買の米相場の書付)	(天保14年正月)	1843	—	—	状	1	庄屋新吾方で聞き合わせ
681	(御場見習衆の願につき書状)	8月19日	—	別府友次郎	両組 御仲間衆様	状	1	
682	(水野藤兵衛の役替え、北郡へ来る組頭・鷹匠・同心組頭・同心・餌差の氏名につき書状断簡)	(天保13年頃か)	—	—	—	状	1	
683-1	(当春御帰国のルートにつき書状)	2月朔日	—	野口安之右衛門	三郡 御鳥見中	状	1	
683-2	(当春御帰国のルートにつき書状。後欠)	2月15日	—	野口安之右衛門	白子・川曲郡(欠)	状	1	
683-3	(書状断簡)					他	2	
684	(北長太村で綱指の願いは控えるべきとの書状断簡)	—	—	—	—	状	1	
685	(後継者の見習・扶持方願いなどにつき書状断簡)	—	—	—	—	状	2	
686	(貴表では絵図などを出して行った白子よりも万事手軽にすることにつき書状断簡)	極月3日	—	野口安之右衛門	川曲郡 御鳥見中	状	1	何を行うのかは不明
687	(従姫ほか3名は明脱院養子の心得で取扱うようにとの書状)	10月20日	—	野口安之右衛門	白子・川曲郡 御鳥見中	状	1	
688	(老年の小野杉右衛門の後任願につき彦右衛門からの指示を伝える書状)	正月8日	—	真弓小平次	坂半三郎様	状	1	
689-1	(若松村・柳村・北長太村・林崎村の鶴代見分のようににつき届下書。前欠)	12月	—	—	—	状	1	658と関連
689-2	(御鳥見との面会のため柳村庄屋宅へ来ることを願う書状下書)	12月12日	—	—	河合善右衛門様	状	1	
690	(昼支度見合わせと先に白子へ行くと伝える書状。順村予定変更のためか)	正月9日	—	南 兩人	北 御仲間衆様	状	1	肥田村で組頭から指示があった
691-1	(8日白子泊・9日神戸泊との組頭からの指示の伝達状)	正月8日	—	白子 御鳥見中	川曲郡 御仲間衆中	状	1	
691-2	(四日市一件につき奉行衆が8日白子泊のこと、相談のため川曲郡仲間は9日に神戸宿集合の通知)	正月7日夜	—	野口七太夫	白子川曲郡 御鳥見中	状	1	
692	(北長太村の百姓が拾った落鶴の処置と、褒美下賜につき書状)	2月12日	—	斎藤友右衛門、野口彦左衛門	後藤右左衛門様、坂半右衛門様、杉野善兵衛様	状	1	
693	(4人の百姓への下賜金渡し方につき書状)	卯正月9日	—	野口彦右衛門	坂半三郎様	状	1	

694	(証書と緋子の礼状)	11日	—	橋本源九郎	坂御氏様	状	1	
695	(江島村一件について御代官衆とも内談しているが自分たちでは取り計らいが難しい状況であるとの書状)	12月26日	—	杉野彦之丞、坂半右衛門	江川三十郎様	状	1	
696	(泊村にて一宿した4人分の木銭・扶持方の受取書)	3月18日	—	泊村庄屋 秀八(印)	後藤古左衛門様、坂半右衛門様、佐野勝之丞様	状	1	
697	奉願口上書(鷹場の支障がなければ、字おぼ池に百姓家1軒を建築したいとの願書)	天保3年辰正月	1832	神戸領川曲郡高岡村 庄屋 宗兵衛(印)	御鳥見衆中	状	1	「上 高岡村」と書いた包紙とも
698	乍恐以書付申上候(鷹場の支障がなければ、字御堂の前に家作したいとの願書)	申正月	—	神戸領河田村 役人共	—	状	1	「上 河田村」と書いた包紙とも
699	御諭請書(勢州一円を紀州様鷹場の承知するとの請書。後欠)	天保6年未5月	1835	神戸常盤町 名主 甚兵衛(印)ほか鍛冶・豎・川・萱・石橋・新・十日市の名主11名	—	状	1	
700	(神戸町年寄岡田善五郎の病死、十日町・新町の名主が町方用懸役に任命された届への返書。後欠)	—	—	—	—	状	1	
701	奉願口上(役所敷地内で鉄砲稽古の許可願)	天保14卯年5月7日	1843	有馬満丸家来 代官 取名左伝治・棚瀬伝之丞	紀伊様 御鳥見衆中	状	1	「願書 吉通」と書いた包紙とも
702	御請書(鉄砲稽古にあたり日数届出・玉目制限・他領者には稽古場に入りにさせないとの請書)	(天保14)5月14日	1843	有馬満丸家来 代官 取名左伝治・棚瀬伝之丞	(欠カ)	状	1	「請書 棚瀬伝之丞・取名左伝治」と書いた包紙とも
703	奉願上口上(鷹場の支障がなければ溜池4カ所を掘立てたいとの願書。中欠)	安政5年午4月	1858	神戸領川曲郡 西条村年寄 □□(印)・彦右衛門(印)、庄屋 宗治郎(印)	御鳥見衆中様	状	1	「上 神戸領川曲郡 西条村」と書いた包紙とも
704	奉願口上(鷹場の支障がなければ既存の材木商店毛に続けて味噌商売の居宅を家作したいとの願書。後欠)	安政5年午4月	1858	久居領河田郡 中其田村年寄 平右衛門(印)ほか2名、庄屋 吉田耕治郎(印)	(欠)	状	1	
705	奉願上口上(瓦焼業再開にあたり見分・許可願。御鷹場御用掛 内山次右衛門の奥書あり)	安政6年未3月	1859	龜山領川曲郡 三日市村 肝煎 三兵衛(印)、庄屋 助右衛門(印)	紀伊様 御鳥見衆中	状	1	「上 龜山領 三日市村」と書いた包紙とも
706	御届奉申上口上(松林の畑地開発願。御鷹場御用掛 内山次右衛門の奥書あり)	安政6年未3月	1859	龜山領鈴鹿郡算所村 肝煎 十兵衛(印)、庄屋 治助(印)	紀伊様 御鳥見衆中	状	1	「上 龜山領 算所村」と書いた包紙とも
707-1	奉預り一札之事(鷹場の儀につき御取調べ中の百姓藤次郎を村で預かるにつき)	文久元年酉極16日	1861	小笠原弥八郎知行所 江島村 肝煎 徳兵衛ほか1名、庄屋 新三郎ほか1名	紀伊様 御鳥見衆中	状	1	
707-2	奉歎願口上(鷹場内で鉄砲を用いた大工藤三郎の処分内済願)	文久2年戌2月	1862	小笠原弥八郎知行所 江島村 肝煎 徳兵衛(印)、庄屋 新三郎(印)	紀伊様 御鳥見衆中	状	1	
708	奉御請申上口上(大工藤三郎の内済が許されるにあたり)	文久2年戌2月	1862	小笠原弥八郎知行所 江島村 肝煎 八兵衛(印)ほか1名、庄屋 新三郎(印)	紀伊様 御鳥見衆中	状	1	
709-1	(江島村で鉄砲を打つかどで捕えた者の村預けをめぐる経過を知らせる書状下書)	(文久元)12月16日	1861	川曲郡 御鳥見	野口彦次郎様、村林五八郎様	状	1	(2つに切れている)
709-2	(江島一件済口につき書状断簡。追伸部分)	(文久2)2月17日	1862	—	後藤衛門輔様、杉野善之丞様	状	1	
709-3	(藤三郎を連れて江島村役人が来ることにつき書状)	(文久2)正月26日	1862	杉野彦之丞、坂半右衛門	江川三十郎様	状	1	
710	(江島一件を早々に片づけたいとの書状)	(文久2)正月24日	1862	三十郎	司馬様	状	1	
711	(江島村殺生入一件が内済になつた報告下書。川曲郡御鳥見から野口彦次郎ほか1名あて、杉野善之丞ほか1名から橋本源三郎あて)	(文久2)2月11日	1862	—	—	状	1	2通を1枚の紙に書いている

712	(江島村役人と藤三郎の取扱いの相談のため参上したいとの書状控)	(文久2)正月27日	1862	川曲郡 御鳥見	瀧本源三郎様	状	1	
713	御請旁奉歎願口上(預りの藤三郎が癩気のため出頭延期と穩便の取扱いの願書下書)	(文久2年)	1862	—	紀伊様 御鳥見方 御役人衆中	状	1	
714	(江島村藤三郎一件の延引の状況などにつき書状下書)	(文久2)正月25日	1862	川 仲間	清水大助様、宮崎忠右衛門様	状	1	書状断簡1枚がまぎれこみ
715	(小笠原領陣屋を通して手続きする方法など箇条書)	—	—	—	—	状	1	3片に分断されている
716-1	(北長太村庄屋宅への呼び出し状)	2月9日	—	御鳥見中	江島村 庄屋中・肝煎中	状	1	
716-2	奉歎願口上(預りの藤三郎が癩気のため出頭延期と穩便の取扱いの願書下書。後欠)	—	—	—	—	状	1	
716-3	(江島村一件に関する書状・願書断簡)	—	—	—	—	他	4	
717	(願書・書状の包紙)	—	—	—	—	他	1括	(一部村名, 氏名, 年号があり)
718	奉口口(鷹場の支障がなければ肥類商売屋を建てたいとの願書。御用承り役 内山治右衛門の奥書あり。前・後欠)	午4月	—	南若松村 肝煎 重吉(印)ほか3名、庄屋 弥太夫(印)ほか1名	(欠)	状	1	(上・下に分断)
719-1	覚(利子・呉服代金勘定書)	卯1月	—	米屋 太七	長太村 坂直様	状	1	
719-2	記(黒砂糖など代金請求書)	明治15年9月	1884	北長太 坂氏	神戸 笹屋御店中	状	1	
719-3	記(貸付金元利勘定書)	明治14年巳1月	1881	米屋 太七(印)	長太邨 小林様	状	1	
719-4	(包紙類及び明治期のメモ)	—	—	—	—	他	1括	
720	乍恐口上之覚(鷹場に支障がなければ酒造の蔵を建築したいとの願書)	巳9月	—	津領河曲郡中戸村 役人共	—	状	1	「上 中戸村」と書いた包紙とも
721-1	覚(当冬三領割合の通知)	寅12月5日	—	組頭兩人、当番1人	川曲郡 御仲間衆	状	1	
721-2	覚(御場廻りのときの1宿分の木銭・扶持方受取書)	(文化4)卯12月27日	1807	泊村庄屋 秀八(印)	後藤古左衛門殿、坂半右衛門殿、杉野善兵衛殿	状	1	端裏「文化四卯極月取」
721-3	覚(大黒屋での1宿の米代・木銭代の受取書)	(文化元)子12月24日	1804	上野村庄屋 五郎左衛門(印)	後藤古左衛門殿	状	1	端裏「文化元年」
721-4	覚(白子から上野への人足賃受取書)	2月20日	—	問屋 吉蔵(印)	佐野九左衛門様	状	1	
721-5	覚(白子から北長太への人足賃受取書)	2月20日	—	問屋 吉蔵(印)	後藤 衛門輔様	状	1	
721-6	覚(去未冬の御荷持人足賃米受取書)	申2月3日	—	柳村 庄屋 喜右衛門(印)	御鳥見衆中	状	1	
721-7	口上(鷹御用荷持人足の賃米につき。後欠)	(欠)	—	北長太村庄屋 新六	(欠)	状	1	

721-8	覚(後藤平兵衛ほかの宿泊木銭・扶持方受取書。後欠)	(寛政12)正月27日	1800	泊村庄屋 丈右衛門(印)	(欠)	状	1	端裏「寛政十二申正月打廻り止宿ス」
721-9	(宿泊の木銭・米渡し覚。前欠)	子極月23日	—	後藤古左衛門	白子 庄屋中	状	1	
721-10	覚(宿泊・昼支度の代・木銭代勘定書)	(文化元)	1804	—	白子 庄屋中	状	1	端表「文化元子年」
721-11	覚(坂市右衛門ほかの扶持代金受取書)	亥11月14日	—	北長太村庄屋 十郎左衛門(印)	御鳥見衆中	状	1	
721-12	覚(荷持人足、鉄砲人足の賃米受取書)	卯2月	—	柳村庄屋 九兵衛(印)	御鳥見衆中	状	1	
721-13	覚(人足の木銭受取書)	(文化2)丑2月10日	1805	庄屋 十郎左衛門(印)	御鳥見衆中様	状	1	端裏「文化二丑年」
721-14	覚(御荷持人足・棒突人足の賃米受取書)	申2月	—	柳村庄屋 九兵衛(印)	御鳥見衆中	状	1	
721-15	(木銭・扶持米の受取書。前欠)	辰12月23日	—	泊村庄屋 秀八(印)	—	状	1	
721-16	覚(支度料の受取書)	辰12月22日	—	庄屋 十郎左衛門、新次郎	御鳥見衆中様	状	1	
721-17	覚(昼支度の扶持方受取書)	(文化元)子6月3日	1804	泊村庄屋 秀八(印)	後藤古左衛門殿、坂半右衛門殿、杉野善兵衛殿	状	1	端裏「文化元年」
721-18	(御止宿の扶持方・木銭の受取書)	極月28日	—	大野 五郎左衛門	坂半右衛門様	状	1	
721-19	覚(上野止宿の代銭など渡し覚)	子極月23日	—	栗本喜左衛門、佐野九左衛門	上野村 庄屋中	状	1	
721-20	覚(飯代受取)	(文化6)巳2月3日	1809	庄屋 新次郎(印)	御鳥見衆中様	状	1	端裏「文化六巳とし」
721-21	覚(支度料受取書)	巳12月22日	—	庄屋 新次郎(印)	御鳥見衆中様	状	1	
721-22	記(粕代勘定書)	(明治)卯8月	—	下口口 油屋喜右衛門	北長太村 坂様之助様	状	1	
721-23	覚(去卯年の荷持人足賃米受取書)	辰2月13日	—	柳村庄屋 喜右衛門(印)	御鳥見衆中	状	1	
721-24	覚(去冬の荷持人足賃米受取書)	午2月8日	—	柳村庄屋 喜右衛門(印)	御鳥見衆中	状	1	
721-25	覚(去冬の荷持人足賃米受取書)	未正月20日	—	通村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	
721-26	(人足賃・支度賃などの受取書断簡)	—	—	—	—	他	6	
722-1	乍恐書付を以奉御請申上候(御鷹御休宿に対して金200疋下賜の受取)	巳6月26日	—	山形並次(印)	後藤衛門輔様、佐野九郎左衛門様	状	1	
722-2	覚(棒突・荷持の賃米受取)	丑3月	—	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	
722-3	覚(去冬の人足賃米受取)	辰2月7日	—	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	

722-4	口上(荷物人足・鉄砲打人足の賃米受取)	文化5年辰正月	1808	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見中様	状	1	
722-5	覚(宿賃受取書)	子3月8日	—	池山村庄屋 長左衛門(印)	紀伊国様 御鳥見中様	状	1	
722-6	(御小休の下賜金受取。冒頭一部欠)	天保4巳年	1833	御料 石薬師宿 問屋 正八郎(印)、年寄 庄兵衛(印)	後藤様、杉野様	状	1	
722-7	覚(去辰の荷物人足賃米受取書)	巳正月21日	—	一色村庄屋 林七(印)	(虫損)様	状	1	
722-8	覚(去巳人足賃米の受取)	午2月4日	—	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	
722-9	覚(去戌冬の御荷持人足賃米の受取)	亥正月22日	—	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	
722-10	覚(去酉冬人足の賃米の受取)	戌2月6日	—	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	
722-11	覚(荷持人足、鉄砲人足の賃米受取書)	卯5月	—	庄屋 林七(印)	御鳥見中様	状	1	
722-12	覚(昼支度代の受取書)	子3月10日	—	寺家村庄屋 関蔵(印)	御鳥見衆中	状	1	
722-13	覚(去冬の御荷持人足の賃米受取書)	亥3月晦日	—	柳村 庄屋 仁兵衛(印)	御鳥見衆中様	状	1	
722-14	覚(去冬の人足賃米の受取)	申2月9日	—	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	
722-15	覚(去冬の人足賃米の受取)	寅2月5日	—	一色村庄屋 林七(印)	御鳥見衆中様	状	1	
722-16	被下置請取申金子之事(広瀬村での御鷹御休の下賜金)	巳6月26日	—	亀山領中若松 内山治右衛門	御鳥見中様	状	1	
722-17	覚(昼支度・木銭の代米受取)	子12月	—	白子村庄屋 伝右衛門(印)	御鳥見衆中	状	1	
722-18	覚(昼支度・宿銭の代米受取)	子4月6日	—	泊村肝煎 繁八、庄屋 久右衛門(印)	御鳥見中様	状	1	
722-19	覚(宿賃受取)	子3月7日	—	山本村 庄屋 良助(印)	紀伊国様 御鳥見中様	状	1	
722-20	覚(昼支度・木銭の代米受取)	子12月	—	白子村庄屋 伝右衛門(印)	後藤古左衛門殿	状	1	
723-1	覚(酒肴・宿泊代覚)	12月16日	—	白子屋 藤右衛門	上	状	1	
723-2	禁物(治療の禁忌物と施薬。コレラか)	—	—	—	半右衛門様	状	1	
723-3	(治療の禁忌物と施薬。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
723-4	覚(伝馬1疋差し立てにつき)	辰5月2日	—	広田八郎左衛門(印)	従川曲郡北口口村松坂迄 伝馬継 庄屋中	状	1	
723-5	覚(酒肴・宿泊代覚)	12月20日	—	白子屋 藤右衛門	上	状	1	

723-6	(代金勘定書など断簡)	—	—	—	—	他	3	
724	(褒美の儀、拙者跡役につき書状。前欠)	25日	—	左五右衛門	彦右工門様	状	1	
725-1	口上(北筋で盗鉄砲を打つ者を追いかけた報告。後欠)	—	—	川曲郡 御鳥見	—	状	1	端裏「鉄砲追落し」
725-2	(盗鉄砲を追い掛け鉄砲を押収したことを知らせる書状下書断簡)	正月15日	—	川 仲間	泊り詰 御仲間衆様	状	1	
725-3	(盗鉄砲を追い掛け鉄砲を押収したことを知らせる書状下書断簡)	正月15日	—	川曲郡 御鳥見	志賀弥三左衛門様	状	1	
726	(中尾八太郎ほか3名の御場見習延引につき書状)	8月17日	—	斎藤友右衛門	白子・川曲郡 御鳥見中	状	1	
727	(活物鶴の捕獲状況につき書状)	11月29日	—	川曲郡 御鳥見中	野口七太夫様、小川専左衛門様	状	1	
728	(相談したい事があり出席依頼。前欠)	11月10日	—	川 仲間	後藤衛門輔様	状	1	
729	(非番・当番の人数について書状。前欠)	12日	—	彦右衛門	御鳥見中	状	1	出扶持の関係
730	(書付の伝達と泊村役家の報告依頼の書状。前欠)	10月12日	—	野口彦右衛門	白子・川曲郡 御鳥見中	状	1	
731	(別紙をの伝達状。前欠)	10月5日	—	岡山新助	野口彦右衛門様	状	1	
732	(天気続きで白鳥が来ず絵図にも書きがたいとの書状。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
733	(鳥見衆へも報告した件の再お尋ねにつき書状。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
734	(川曲郡鶴飼付番の不行届のため番賃減額などにつき書状。後欠)	—	—	—	御仲間衆様	状	1	
735	(人足賃米高と人足遣いの不適合について説明)	—	—	—	—	状	1	貼紙か
736	(書状断簡)	—	—	—	—	他	3	
737	(先回の御上洛についての照会への回答書断簡。後欠)	—	—	道之丞	御仲間衆様	状	1	寛永11年のこと
738	(右書面の伝達状断簡。前欠)	11月8日	—	野口彦左衛門	川曲郡 御鳥見中	状	1	
739	(鳥の差上げ、雁・鴨捕獲出精につき書状断簡。前後欠)	11月26日	—	坂左馬助、後藤衛門輔	—	状	1	
740	(天保13年の御鷹一卷関係書状を集めよとの書付)	—	—	—	—	他	1	付箋か
741	(岩内の妹子・小児につき書状断簡。前後欠)	—	—	—	—	状	1	
742	(神戸一件につき現状報告の書状。後欠)	—	—	—	—	状	1	

743	(菰包みの鶴の送付などにつき書状断簡。前欠)	12月27日	—	□□□次郎	川曲郡 御仲間衆様	状	1	
744-1	(野口氏頼み一条、佐野からの別紙につき書状断簡。前欠)	天保5年3月21日	1834	—	—	状	1	
744-2	(3人の御場見習につき書状断簡。後欠)	—	—	—	—	状	1	関連のものか？
745	(御鳥見へ提出する書付を明日中に出してほしいとの書状断簡。前・後欠)	12月10日	—	速水半兵衛	野口彦左衛門様	状	1	
746	(休足の由了承との書状断簡。前欠)	正月10日夜	—	河合善吉・磯部宇右衛門	御鳥見中様	状	1	
747	(活物鴨・小鴨・真雁の捕獲につき書状断簡。前欠)	11月27日	—	—	—	状	1	
748-1	(扶持米の受取・鶴餌糶の不足への対応につき書状下書)	12月	—	御鳥見中	野口安之右衛門様	状	1	裏
748-2	(頭衆・御鷹方の来郡につき書状下書。前・後欠)	—	—	—	—	状		表
748-3	(手形につき書状断簡。前欠。扶持米手形だろう)	5月28日	—	喜多新右衛門、久右衛門事 市原権左衛門	佐野基太郎様、坂本三郎 様、坂久四郎様、坂儀八郎 様	状		表
748-4	(御鷹野のときの扶持米につき書付)	—	—	—	—	状	1	貼紙か
749	(書間末尾部分の断簡)	—	—	—	—	状	9	
750-1	(四日市駅までの距離、三重郡の規模につき書付断簡)	—	—	—	—	状	1	末尾のみ
750-2	(書状末尾部分の断簡)	—	—	—	松坂・一志郡・田丸・白子・川曲 郡 御鳥見中	状	1	
751	(伊十郎様仰せの一件を年寄中へ通知するとの書状)	8月19日	—	吉田九郎右衛門	吉田伊右衛門様	状	1	
752	代舌(龍光寺の印形を預り届けるにつき)	4月8日	—	古田庄左衛門	吉田伊十郎様	状	1	
753	(延引していた酒造改の実施につき書状)	3月15日	—	多田市左衛門	下箕田村庄屋 伊右衛門 殿	状	1	
754	(御切手米金50両につき書状)	10月17日	—	芝原七郎左衛門	箕田 吉田伊右衛門様	状	1	
755	口上(御払米50俵の船積入につき)	12月17日	—	後藤(?)七衛門	箕田 吉田伊右衛門様	状	1	
756	(盗品受取のため津方へ出頭につき書状。後欠)	5月11日	—	多田市左衛門	南堀江・下箕田 両村(欠)	状	1	
757-1	口上書(三栗谷平三郎帰職の願書。後欠)	(明治4カ)6月8日	1871	下箕田村惣代伍長 一尾作治 郎(印)・浅野喜代八(印)	—	状	1	離職は藩裁を既に経ているが、継続を願う
757-2	口上(下箕田村村長分課事件につき。後欠)	—	—	—	—	状	1	



758	(本陣清水太兵衛の願書差出しの首尾につき書状)	6月6日	—	玉川	佐伯様	状	1	
759-1	(自分と賢父様の帰宅予定につき書状断簡。後欠)	—	—	吉田庄左衛門	吉田伊右衛門様	状	1	3片に分断されている。別々かもしれない
759-2	(米5俵の差し上げと残りの延期願いの書状)	5月13日	—					
760	(書状の追伸部分。安養寺の色法衣につき)	2月14日	—	—	—	状	1	
761-1	(祭礼の餅つきにつき書状断簡。前・後欠)	□月10日	—	—	—	状	1	
761-2	(帰宅予定につき書状断簡。後欠)	—	—	—	—	状	1	
761-3	(切手米の勘定書。前欠)	—	—	—	—	状	1	
762	(貸金5両の送り状。後欠)	—	—	吉田九郎右衛門	吉田伊右衛門様	状	1	
763	(粕の仕切の依頼状断簡。後欠。酒株についても触れる)	—	—	下庄 国分五郎兵衛	箕田 吉田伊十郎様	状	1	
764	(類焼見舞の礼とその後の状況につき書状断簡。後欠)	—	—	—	—	状	1	
765-1	(書状冒頭部分の断簡)	—	—	吉田九郎右衛門	吉田伊右衛門様	状	1	
765-2	(盆中のこと相談したいとの書状断簡。前欠)	7月9日	—	—	—	状	1	
765-3	(病状につき書状断簡。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
765-4	(書状断簡)	—	—	—	—	状	3	
766	(下箕田村の皆無田改に出向くとの書状断簡。後欠)	—	—	—	—	状	1	
767	口述(上箕田村取箇帳のこと、三重郡上納に理左衛門が出勤することなど。後欠)	—	—	—	—	状	1	
768	(津での売買引き合いなどにつき書状断簡。前欠)	—	—	—	—	状	1	
769-1	(入札の件などにつき書状断簡。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	下貼りの接着がとれておらず、2点が繋がっている
769-2	(村々祭礼取締りにつき書状断簡。後欠)	—	—	吉田九郎右衛門	吉田庄左衛門様、吉田伊右衛門様	状	1	
770	蓮花寺講(掛け戻し金の立て替え分)	12月16日	—	吉田九郎右工門	吉田伊右衛門様	状	1	
771	(御料所の荒地見分のため当村荒地帳調作成に加勢を頼む書状)	7月朔日	—	河村源十郎、梁平	吉田伊右衛門様	状	1	上部欠損
772	(先生の京都での居所、動静につき書状断簡。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	福井丹波守方、尼崎屋源兵衛方が居所

773-1	(書状断簡など)	—	—	—	—	状	5	
773-2	口上(書状の冒頭部分の断簡)	—	—	浅野防州	吉田伊右衛門様	状	1	
773-3	(書状の末尾部分の断簡)	5月3日	—	辻村恕庵	吉田伊右衛門様	状	1	
773-4	(金子の受取か。前欠)	巳9月	—	橋野儀右衛門(印)	下箕田村 庄屋	状	1	
774	(水筒走の古木など入札の通知。前欠)	11月3日	—	郡方 手代(?)	右村々 庄屋・年寄中	状	1	
775	(庄次郎父子が料理人に来てくれたことにつき書状断簡。前欠)	5月27日	—	—	—	状	1	
776	(御用命の緋縮緬の品・値段などにつき書状。後欠)	3月24日	—	—	—	状	1	
777	(去冬御差口米につき書状。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
778	(獅々舞のため下箕田村獅子の予定につき書状。後欠)	—	—	—	—	状	1	
779	(肥代金一件の決着方につき書状。後欠)	—	—	—	—	状	1	
780	(太々神楽への加入などにつき書状。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
781	(筒一件の下箕田村・当村の決着につき書状。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
782	(分水装置の修復方法につき書状。前欠)	—	—	—	—	状	1	鞆を打つのは不承知。下海蔵で1寸2分上げる
783	(吉田猪三郎の借財の件につき書状断簡)	—	—	—	—	状	1	4分割
784	(上箕田村助郷の件に御代官所・大庄屋が関与することにつき書状。後欠)	—	—	吉田太右衛門	吉田伊十郎様	状	1	
785	(米・油の価格と売買方法につき書状。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
786	(断簡・下書きの一部など)	—	—	—	—	状	1括	
787	(元株50石の値段につき書状。前欠。酒株か)	3月25日	—	—	—	状	1	
788-1	(入込み荷物売方などにつき書状。前欠)	9月26日	—	はりまや 喜兵衛 店とも(印)	吉田伊右衛門様 御庄屋様	状	1	
788-2	(大沢南走りなど修繕箇所入札メモ。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
788-3	(納り残り米・宇右衛門方渡し米などの書き出し断簡)	—	—	—	—	状	1	
788-4	断簡・横帳の一部など	—	—	—	—	状	10	

789	(津表から切米手形が届くこと、初めての江戸詰の様子につき書状。前・後欠)	—	—	—	—	状	1	
790	(荷物の船積、盆前金子勘定につき書状)	11月22日	—	吉田伊右衛門	吉田猪重郎様	状	1	下部破損
791	(不審な味淋粕販売につき、品の出所元にあてた書状)	6月9日	—	藤堂仁右衛門内 服部林左衛門	吉田 伊右衛門様	状	1	
792	(不順気作へのお救いにつき書状。後欠)	—	—	—	—	状	1	
793	紀州様非常御普請救合金借用証文質地反別帳(雛形)	—	—	—	—	豎	1	(ただし綴ってない)
794	(中箕田・下箕田村の人夫役給米勘定書)	—	—	—	—	状	1	
795	(文五郎分の酒・空き樽の取引メモか)	—	—	—	—	状	1	
796	覚(正月・2月の出勤日数覚。後欠)	—	—	—	—	状	1	
797	覚(不順気候につき。後欠)	—	—	—	—	状	1	
798	覚(浜手内の新堤による潰れ地の届)	2月	—	下箕田村	—	状	1	
799	覚(御蔵米50俵の売り付覚)	午正月10日	—	吉田伊右衛門(印「勢州箕田」)	長太 吉郎右衛門殿	状	1	
800	覚(如来様・聖人様の仕様覚)	—	—	親父	伊十郎殿	状	1	
801	覚(利足の支払い覚)	丑霜月24日	—	吉田伊右衛門(印)	御隠居様	状	1	元金30両に金2両2分6匁
802	覚(久居御切手115俵の受取。後欠)	—	—	—	—	状	1	
803	覚(米420俵の調達覚。治右衛門へ渡す)	2月15日	—	—	—	状	1	
804	覚(売却した御普請人夫米の代金渡し覚)	午4月28日	—	稲葉忠左衛門(印)	吉田伊十郎様	状	1	
805	覚(白茶もみ紙など46枚の調達依頼)	—	—	—	—	状	1	
806	(万助と善五郎の掛合の調停依頼)	正月23日	—	坂左馬助	吉田伊右衛門様	状	1	破損
807	(借主の家財入札と世話方につき依頼状。前・中欠)	11月10日夕	—	坂左馬助	吉田伊右衛門様、同伊十郎様	状	1	
808	(村入用算用帳の一部か 断簡)	—	—	—	—	状	6	水筒・橋等材料・人夫など
809	(書状・入札覚など断簡)	—	—	—	—	他	1括	
810	(近況報告の書状か)	24日夕	—	梅笑	御旦那さま	状	1	源氏香・秋草を摺りこんだ料紙

811	承認証(大日本写真協会支部会員の承認)	明治30年10月10日	1897	会頭侯爵徳川篤敬(印)、副会頭公爵二条基弘(印)	太田耕平君	状	1	
812	一札之事(飯米搗水車設置にあたり)	文政12年丑3月	1829	車主 金右衛門(印)・仲間(印)	伝右衛門殿、又兵衛殿、伝蔵殿	状	1	「河筋 証文壺通入 金右衛門」と書いた包紙入り
813	差入記(柳原に水車を新築するにあたり甲斐村・野辺村の飲み水に支障ないようにするとの約定書)	明治11年3月15日	1878	上田村 川北林助(印)、証人 川北利右衛門(印)、組頭 川北市次郎(印)、用掛 岡本武造(印)	甲斐村・野辺村 御中	状	1	「差入 上田村 川北林助」と書いた包紙入り
814	田畑売証文 長蔵 此訳源七へ売渡し下書有(包紙)					他	1	
814-1	売渡申田畑之事(田・畑6筆分)	文政6癸未年正月	1823	売主 長蔵(印)、請人親類 伝蔵(印)、同組頭 伝蔵(印)、庄屋 源蔵(印)	伝右衛門殿	状	1	
814-2	売渡シ申田畑之事(上記6筆のうち上田2筆を除く4筆の転売)	文政13年庚寅3月	1830	売主 伝右衛門	源七殿	状	1	
815	売渡田地之事	明治3年庚午12月	1870	野辺村売主 利八、引受人 角平、肝煎 西村又吉、庄屋 萩九八郎	甲斐村 弥平殿	状	1	「田地証文 壺通 野部 利八」と書いた包紙入り
816	売渡申田地之事(815と同じ田地)	万延2年酉正月	1861	野辺村売主 利八(印)、引受人 角兵衛(印)、肝煎 武助(印)、庄屋 萩九一郎(印)	甲斐村 清蔵殿	状	1	「田地証文 利八より 田請取有」と書いた包紙入り
817	田地売渡仮証(地券が来たら本証に替える)	明治9年7月	1876	預ヶ主 北川清蔵(印)、受人 北川市五郎(印)	北川清右工門殿	状	1	「田地売渡証 清蔵」と書いた包紙入り
818	田地売渡仮証(地券が来たら本証に替える)	明治9年7月	1876	預ヶ主 北川清蔵(印)、受人 北川市五郎(印)	前川定五郎殿	状	1	「田地売渡証 清蔵」と書いた包紙入り
819	借用証書(悴の1ヶ年奉公を引き当てに20円借用)	明治9年子2月	1876	かり主 国府新田 森利助(印)、親類受人 森三五郎(印)	甲斐村 北川清蔵殿	状	1	「借用書 国府新田 利助」と書いた包紙入り
820	証券 一通 清蔵(包紙のみ)	—	—	—	—	他	1	
821	口上(内密に話したいので光来を願う)	正月6日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
822	口上(別紙のとおり届けるので受取書を願う)	正月9日	—	玉置儀三郎	杉野伊右衛門様	状	1	
823	覚(取替え金・預り金・小入用の勘定書)	巳5月22日	—	玉置勘左衛門(印)	杉野伊右衛門様	状	1	
824	(先年の拝借は小子の金子でないため断り状)	2月20日	—	玉置儀三郎	杉野伊右衛門様	状	1	4、5両は差し上げる

825	口上(先刻申上た金子の処理について)	5月2日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
826	(差引き過金46両1分をこの者へ渡すよう依頼状)	5月24日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
827	口上(明朝までに書類を交換したい)	8月4日	—	玉置	杉野御氏	状	1	
828	(代理人から依頼したことを詫び、全快したら改めて相談を願う書状)	12月19日	—	玉置	杉野様	状	1	
829	口上(中戸村役筋につの繰替えについて情報提供を願う)	正月13日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	読後火中を願う。別紙に追伸あり
830	(和熟講などは除外した勘定額をこの女子に渡してほしいとの書状)	5月23日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
831	(恩借の返済として現米3俵の送り状)	大晦日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
832	(勘定書を送るので過銀を戻してほしいとの依頼状)	5月22日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
833	(私方一条無事済んだ報告、検見の郡方役人宿泊のため夜具借用の依頼状)	9月18日	—	玉 勘左衛門	杉 伊右衛門様	状	1	
834	(渡した金子のうち見えが悪いものの返却願い状)	5月2日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
835	(兼ねての一条につき別紙2通の内覧と筆写の依頼状)	—	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
836	覚(恩借金利足と小入用の差引き勘定書)	子12月24日	—	玉置勘左衛門(印)	杉野伊右衛門様	状	1	
837	覚(亀山切手・神戸切手の勘定書)	6月29日	—	太右衛門	杉野所兵衛様、同弥七様	状		
838	(田地引き当ての借金の証文引替えにつき書状)	9月26日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
839	覚(68両受取証と質物の地面・証文返却の添え状控)	子7月10日	—	杉野伊右衛門	玉置勘左衛門殿	折	1	
840-1	為取替一札(質地受取りと金子返済時には返すとの証文)	嘉永2年酉11月	1849	杉野伊右衛門(印)	玉置勘左衛門殿	状	1	
840-2	為取替添書一札(質地渡しと返還につき添え証文)	嘉永2年酉11月	1849	玉置勘左衛門(印)	杉野伊右衛門殿	状	1	「いの道のた証文 添書 玉置 杉野御氏」と書いた包紙入り
841	覚(68両受取証と質物の地面・証文返却の添え状控)	7月10日	—	杉野伊右衛門	杉野伊右衛門殿	状	1	
842	(恩借金のうち益後20両返済するので証文書替え依頼状)	8月17日	—	玉置勘左衛門	杉野伊右衛門様	状	1	
843	嘉永五子年稲生道地玉置勘左衛門殿一件 大切成入用物也(袋書。玉置が杉野から68両借用と返済経過につき玉置の申訳書)	(嘉永5)	1852	—	—	豎	1	袋入り
844	稲生道・野田両出屋敷地面充テ米并本年貢米共夫々仕分ヶ控帳	嘉永4亥年11月改	1851	杉野伊右衛門	—	横	1	「西奥字稲生道・野田出垣内屋敷附地面廊不残充作米家別仕分ヶ控帳」と書いた袋入り

845-1	(玉置勘左衛門への68両貸付に関する杉野の申し分)	(嘉永5)	1852	—	—	折	1	
845-2	(渡し金のうち新吹金を先方へ戻す件の書付)	—	—	—	—	状	1	845-1とは無関係
846	小麦請取粉渡シ一通(粉ひきの通帳)	明治31年2月～	1898	牧田村字甲斐 北川清蔵	—	半横	1	
847	諸道具代価取集帳(椀などの代価か)	明治15年10月10日切	1882	北川清造	—	横	1	一部に「議口」の割り印あり
848	(所有田畑の等級・収穫高・地価・作人の台帳)	明治14年3月14日改	1881	—	—	横	1	
849	蚊帳講御通(初会金の受取のみで以下白紙)	明治15年午7月	1882	近州愛知郡中宿村 田中藤太郎(印「江州愛知郡中宿田中藤平」)	甲斐村 小河清造様	半横	1	宛名は北川の間違い
850	明治三拾壹年度下半期 米麦粉搗賃取立帳	明治32年2月	1899	北川清蔵 水車場	—	横	1	
851	(又左衛門・清玉からの借金の元利勘定書)	(明治15年)	1882	—	—	横	1	
852	仕切書(白羽二重28疋の代金の割賦受取勘定書)	3月5日	—	書上輸出店(印)	川北重左衛門様	折	1	横浜の店
853	北川清蔵持地(リスト)	明治28年9月27日	1895	—	—	折	1	
854	(北川清蔵分の貸借金関係書綴。借金・貸金リスト、売却見積りなど)	明治28年9月27日	1895	—	—	綴	1	
855-1	明治十四年作反別	(明治14年)	1881	—	—	状	1	
855-2	十四年当附反別	(明治14年)	1881	—	—	状	1	
856	記(石油・炭など代金勘定書)	明治16年2月	1883	中川定八	北川清蔵様	状	1	
857	勘定書(素麺・車賃の請求書)	8月19日	—	甲斐 升清(印)	若所村 角屋久右衛門様	状	1	
858	覚(紺清からの借り入・駄賃などの相殺勘定書)	明16年月2日月17日	1883	川北升清	—	状	1	
859	覚(衣類の書上げ)	—	—	—	—	状	1	
860	(家族の移動につき返答内容を指示する書状の控え)	—	—	北川	植田六松殿	状	1	
861	(借財、居宅など引渡証、損害品のリスト)	—	—	—	—	折	2	破産したらしい
862	(「五寸」「並切」代金受取書)	8月15日	—	(印「福井佐佳枝下町湊 練物所」)	川北重左工門様	状	1	
863-1	証(貸付金200円の利息受取書)	明治15年9月26日	1882	神戸魚市方ニテ 桑名宮通 中島庄右衛門(印)	鈴鹿郡甲斐村 北川清造殿・北川伝八殿	状	1	

863-2	証(諸戸清吉貸付金の元金一部の受取書)	明治15年10月26日	1882	桑名宮通 中島庄右衛門(印)	鈴鹿郡甲斐村 北川清造殿・北川伝八殿	状	1	
863-3	証(金銭受取書)	明治16年12月24日	1883	桑名宮通 中島庄右衛門(印)	鈴鹿郡甲斐村 北川清造殿・北川伝八殿	状	1	
864	(断簡・反古紙・白紙など)	—	—	—	—	他	1括	
865-1	証券印紙界紙売捌名前帳(売り上げ台帳)	明治8年6月	1875	第六大区三ノ小区甲斐村 売捌人 北川清蔵(印)	—	豎	1	(後半に地別売買証券の下書あり)
865-2	覚(金24円のうち金3円の受取)	明治28年9月16日	1895	北川保蔵	北川清蔵様	状	1	865-1の袋とじ部分にはさんである
866	借用申金子之事(5両)	明治7年戌3月	1874	借主 彦八(印)	北川清蔵殿 口入	状	1	
867	年限地所売渡証(畑1筆を5年季)	明治15年午1月	1882	売渡人 北川清蔵(印、抹消)、受人 小川伝八	勝田十平殿	状	1	
868	預り証券(天野伊助の28円借用証券預り証)	明治15年12月22日	1882	坂寄七三郎(印)	北川清蔵殿	状	1	
869	地所売渡証(耕地2反余)	明治15年3月20日	1882	河曲郡神戸本多町 土族 浅田仲誠、後見 浅田耕耘(印)	鈴鹿郡甲斐村 北川清蔵殿	状	1	
870	借用金証券(10円)	明治15年2月10日	1882	北川伝八(印)	北川清蔵殿	状	1	
871	借用金証券(50円)	明治15年2月15日	1882	借主 北川伝八(印)	北川清蔵殿	状	1	
872	金員借用証(7円50銭)	明治10年12月	1877	第六大区三之小区甲斐村 西川久作(印)	同郡同邨 北川清蔵殿	状	1	
873	金員借用証(7円50銭)	明治10年12月	1877	第六大区三之小区甲斐村 西川久作(印)	同郡同邨 北川清蔵殿	状	1	
874	金員借用証券(小屋を抵当に10円)	明治12年3月5日	1879	借用主 藪田金三郎(印)、請人 藪田喜三郎(印)	北川清蔵殿	状	1	
875	永代売渡し申田地之事(5等田1筆)	明治12年2月	1879	川曲郡野辺村 売主 原田卯兵衛(印)、親類 酒井弥兵衛(印)、世わ人 長谷川与治郎(印)、旧用掛 西村又平(印)	鈴鹿郡甲斐村 北川清蔵殿	状	1	
876-1	記(貸付金16円の元利一部領収証)	明治14年12月31日	1881	堀田伊助	紺清様	状	1	
876-2	記(貸付金の元利皆済証)	明治14年3月28日	1881	小林彦三郎	北川清蔵様	状	1	
877-1	売渡し証文(6等田2筆。戸長 藪田源蔵の奥書あり)	明治14年6月	1881	売渡し人 藤見善七(印)	北川清蔵殿	状	1	
877-2	売渡し約定証(田1反3畝余)	明治14年3月28日	1881	売渡し人 藤見善七(印)、保証人 坂倉金蔵(印)・北川安蔵(印)	甲斐村 北川清蔵殿	状	1	
878	金員借用証(5円)	明治14年6月12日	1881	借用主 藪田金左衛門(印)、保証人 藪田喜三郎(印)	北川清蔵殿	状	1	

879	添書(借用期限変更につき)	明治14年1月17日	1881	かり主 益川伝治(印)	橋本源十郎殿	状	1	
880	借入金証券(28円)	明治14年3月15日	1881	鈴鹿郡甲斐村 借用主 藪田金三郎(印)	北川清蔵殿	状	1	
881	地所永世売渡証(田1畝余。戸長代理筆生 伊藤弥九良の奥書あり)	明治14年3月25日	1881	鈴鹿郡甲斐村 売主 藪田源吉(印)	北川清蔵殿	状	1	
882	記(貸付金の利子の受取書)	明治15年1月20日	1882	小林彦三郎	益川又吉様	状	1	
883	預り証(諸戸清吉からの借入金のうち50円)	明治15年12月30日	1882	預り主 北川伝八(印)	北川清蔵殿	状	1	北川の為替金を返却した分を預かる
884	年賦借入金証券(40円)	明治15年11月17日	1882	鈴鹿郡甲斐村 借主 北川清蔵	三重郡四日市浜町 玉村勘助殿・渡辺宗六殿	状	1	
885	金借用申約定証(50円)	明治15年7月16日	1882	弓削岡田村 豊田牧太良(印)	甲斐村 北川清蔵殿	状	1	
886	請取証(貸付金の受取書)	明治16年5月	1883	益川又八(印)	北川清蔵殿	状	1	
887	借入金証券(亀吉の23円借金か。案文)	明治16年2月5日	1883	鈴鹿郡八野村(以下欠)	—	状	1	
888	借入金証券(26円余)	明治16年2月5日	1883	鈴鹿郡八野村 借り主 三島浅治郎	北川清蔵殿	状	1	
889	金子借用証券(35円)	明治16年1月10日	1883	借用主 前川又次郎(印)	北川清蔵殿	状	1	
890	相規書(返済期日延期につき)	明治16年1月	1883	借主 益川久作	北川清蔵殿	状	1	
891	借用証文(4円)	明治17年1月13日	1884	早川小三郎(印)	北川清造様	状	1	
892	借用証券(25円50銭)	明治17年3月5日	1884	鈴鹿郡甲斐村 借用主 北川庄七(印)、証人 北川清蔵(印)	—	状	1	
893	記(3円借金証書)	明治17年2月	1884	前川宇之吉(印)	北川清蔵殿	状	1	
894	第弐番抵当借入金証券(13円50銭。戸長代理筆生 阪田九良左の奥書、勝田庄八の元利受取の明治28年付け裏書あり)	明治17年5月22日	1884	借用主 北川清蔵(印)	勝田庄八殿	状	1	0
895	地所売渡約定証(一番抵当権者へは元金返済済み)	明治24年4月30日	1891	北川清蔵(印、抹消)	勝田庄八殿	状	1	
896	約定証(78円24銭3厘持参のとき田中末松・益川又八の公証2通を返却するとの約定)	明治17年4月30日	1884	橋本源十郎(印)	北川清蔵殿	状	1	
897	取替(田地売買にあたり違約の場合の約定)	明治17年2月月26日	1884	口川儀光	北川清蔵殿、同庄七殿	状	1	
898	地所売渡証(戸長 伊藤弥九良の奥書あり)	明治16年8月17日	1883	甲斐村 売渡人 西川久作(印)	北川清蔵殿	状	1	
899	地所質入之証(戸長代理筆生 阪田九良左の奥書、勝田嘉平の元利受取の明治28年付け裏書あり)	明治16年4月23日	1883	北川清蔵(印)	勝田嘉平殿	状	1	



900	金子借用之証	明治16年2月	1883	森田源三郎(印)	甲斐 伝八様	状	1	
901	小作米定(畑4畝の小作高)	明治16年3月23日	1883	勝田嘉平(印)	北川清蔵殿	状	1	
902-1	御祝(包紙のみ)	—	—	菅谷弥吉	—	他	1	
902-2	御祝(包紙のみ)	—	—	市五郎	—	他	1	
902-3	麩品 御子様へ(包紙)	—	—	かめ山 かつととき	—	他	1	
902-4	麩品 北川 御産児さまえ(包紙)	—	—	亀山 加藤	—	他	1	
902-5	麩品(包紙)	—	—	川北十左衛門	—	他	1	
902-6	(白紙・反古紙)	—	—	—	—	他	1括	
903	(指紙。麻裱着用で御殿へ出よ)	8月13日	—	御奉行所	田中善助殿	状	1	
904	(町方取締行き届くにつき褒美下賜の書付)	3月25日	—	小川幸左衛門、村瀬伝太夫	田中善助	状	1	
905	(広橋家への呼出状)	2月5日	—	速水長門守、河島安芸守	明眼院権僧正様	状	1	
906	(13人扶持の宛行状)	正徳元年卯11月25日	1711	(黒印)	中川小兵衛とのへ	状	1	檀紙
907	(藤堂佐渡守の伊勢の御台場視察につき通知)	4月29日	—	—	年寄当番 柳主膳	状	1	師職上部越中方に止宿して参宮と二見浦岸の御台場を見分
908	(同姓刑部大輔元服の祝いに対する礼状)	12月15日	—	松平安芸守吉(花押)	本多伊予守様	状	1	もとは折紙
909	農業励方定(耕作・草取り・藁細工などにつき申し合わせ)	宝暦10年辰正月	1760	越智村 弥三郎(印)ほか13名、 頭百姓 左次右衛門(印)ほか5名	—	状	1	
910	年季奉公請状之事(13歳の「ます」が給金3両で8年間奉公)	安政2年卯2月	1855	藤方村奉公人親請 源左衛門(印)、親類請 甚三郎(印)	国府又右衛門様	状	1	
911	(川北村岡での鶴捕獲差し止め、岡に「綱入れ」せよと白子鳥見から今井村庄屋へ申し付けた件につき口上写)	寛文5年巳霜月9日	1665	御鳥見 長左衛門	—	状	1	(切り張り、取扱い注意) 鶴を捕獲していたのは久保田村猪太夫
912	(外である山田井村の野崎で白鳥を鉄砲で打たせることはいかがかと思うとの返答書)	12月22日	—	渡部源内	—	状	1	
913	(野崎の池の白鳥を鉄砲で打つようにとの和泉様の御意だが、当方の鷹場内かどうか問い合わせる書状)	12月22日	—	藤仁右衛門	渡辺源内殿	状	1	
914	覚(誓約・番所条目・足軽勤方など書類目録)	—	—	—	—	状	1	鳥見小頭の引継書類?
915	(津より中郡・雲出郡・一身田郡の各村への距離別リスト)	11月	—	—	—	状	1	

916	(久居郡・鈴鹿郡・奄芸郡・飯野郡・多気郡の他領境目村々への距離・必要日数のリスト)	11月	—	—	—	状	1	
917-1	(川村宣のための懇親会場での挨拶草案)	明治15年3月	1882	川村宣	—	縦	1	会は15日開催。神戸平原地方史の関係頁コピー同封
917-2	(神戸地子町善導寺境内に故 川村宣の頌徳碑建設の許可証)	明治31年3月24日	1898	神戸警察署長 警部 村田 荘之助(印)	河芸郡神戸町本多町 東坂友次、同石橋町 竹島英幹	状	1	
918	白子同志談話会規約(案。白子町将来の幸福増進のため教育など諸般を講究・普及し懇親を結ぶ目的)	—	—	—	—	状	1	
919	(旧神戸藩領南山・国有林野の払い下げの可能性なしとの回答書)	明治32年6月27日	1899	鈴木充美	東坂友次殿、森林実次郎殿	綴	1	鈴木は衆議院議員？
920	祝辞(女学校の卒業式祝辞)	昭和19年3月14日	1944	鈴鹿市長 奥田茂造	—	状	1	
921	(東坂友次の学歴・職歴・資格のメモ)	(明治39年ころ)	1906	—	—	綴	1	
922	祝一身田尋常小学校之開業(祝辞)	明治22年3月26日	1889	白子尋常小学校長 東坂友次	—	状	1	
923	河芸郡一身田学校創立以後参拾年間教育年表(文部卿・県令・校長・児童数など)	明治36年8月23日	1903	発行)三重県河芸郡一身田村大字一身田 太田新蔵	—	他	1	印刷。一身田同窓会通信号外
924-1	第一等 証書(県内小学の教員免許)	明治8年12月4日	1875	三重県師範有造学校(印)	三重県士族 東坂友次	状	1	有効期間5年
924-2	(小学訓導心得の辞令)	明治8年12月4日	1875	三重県	東坂友次	状	1	
924-3	(若松学校への辞令)	明治8年12月4日	1875	三重県	小学訓導心得 東坂友次	状	1	
924-4	(若松学校五等訓導の辞令)	明治15年1月25日	1882	三重県大書記官従六位下山尚奉(印)	東坂友次	状	1	
924-5	(尋常中学校新築費として2円余寄附の褒状)	明治21年7月2日	1888	三重県知事正五位勲四等石井邦猷(印)	三重県奄芸郡白子尋常小学校長 東坂友次	状	1	
925-1	感謝状(5年間の職務ののち本校辞去にあたり)	明治39年4月25日	1906	栗真村長福永信郎(印)	前栗真尋常小学校長東坂友次殿	状	1	
925-2	目録(金10円。栗真小学校長辞去のときのものか)	(明治39年?)	1906	—	—	状	1	
925-3	(神戸中学校費として8円寄附の褒状)	明治20年6月16日	1887	三重県知事正五位勲四等石井邦猷(印)	三重県伊勢国河曲郡神戸本多町 東坂友次	状	1	
925-4	(職務勉勵に対する慰労金2円の支給証)	明治34年12月28日	1901	箕田村長棚瀬正行(印)	箕田尋常小学校長訓導 東坂友次	状	1	
926	(奄芸河曲定期教育談話会設立の趣旨および会則案)	—	—	東坂友次	—	綴	1	
927	(東坂友次の履歴書)	—	—	東坂友次	—	綴	7	
928	(鈴鹿郡会下村当院門徒の宗門改め断簡か)	文政2・文化13	1819・1816	—	—	他	一括	もとは縦帳。裏貼文書

929	(美濃国郡上騒動・越前国石徹白騒動の記断簡)	—	—	—	—	堅	1	もとは縦帳。裏貼文書
930	(書状断簡)	—	—	—	—	他	1	
931	上申下調 改正 田畑宅地・其他反別 地価取調帳	—	—	第二大区壺之小区 垂坂村	—	横	1	三冊之内第壺号
932	上申下調 改正 田畑宅地・其他反別 地価取調帳	—	—	第二大区壺之小区 垂坂村	—	横	1	三冊之内第弐号
933	上申下調 改正 田畑宅地・其他反別 地価取調帳	—	—	第二大区壺之小区 垂坂村	—	横	1	三冊之内第参号
934	大字会議決議書	明治22年9月～	1889	垂坂集会所	—	横	1	
935-1	宇治山田 神苑会寄附帳	明治22年10月21日	1889	大字たる坂	—	横	1	9冊綴じ合わせ
935-2	皇太神宮初穂姓名帳	明治23年12月6日	1890	大字垂坂	—	横	1	
935-3	幟竿納屋建築費帳(巻末に領収書類を綴じこみ)	明治24年6月26日決議	1891	大字垂坂	—	横	1	
935-4	西富田石築及麴献納獅子舞費帳	明治25年8月12日	1892	大字垂坂	—	横	1	
935-5	神官祭服寄附金(羽津村の森光利の祭服)	明治27年12月26日	1894	—	—	横	1	
935-6	幟地并ニ募買入控帳	明治32年10月	1899	大字垂坂	—	横	1	
935-7	立坂神社 塙屏再建・拝殿修繕 費仕拂帳(巻末に領収書類を綴じこみ)	明治24年10月10日	1891	大字垂坂	—	横	1	
935-8	立坂神社修膳覚	明治34年丑5月	1901	—	—	横	1	
935-9	立坂神社修膳寄附金帳	明治34年7月10日	1901	取立 立坂神社氏子中	—	横	1	
936	万覚帳(伊勢講関係)	明治22年丑6月	1889	糶屋仲間中	—	横	1	昭和5年頃まで書き継ぎ
937	麴屋組合(以下欠。組合の議事録・万覚帳)	昭和4年	1929	—	—	横	1	(1046の続き)
938	組合員 名簿(三重麴製造組合)	(昭和8年～)	1933	—	—	堅	1	昭和15年ころまで書き継ぎ
939	組合費徴収簿	昭和8年10月	1933	三重麴組合	—	洋	1	昭和43年まで書き継ぎ
940	現金出納簿	昭和8年1月	1933	三重麴同業組合	—	洋	1	昭和45年まで書き継ぎ
941	金銭出納簿	昭和9年	1934	垂坂麴製造組合 会計係	—	洋	1	昭和63年まで書き継ぎ
942	(大字協議費・戸数割・大日本青少年団結成紀年式通知など大字垂坂の記録綴じ合わせ)	(大正2年～)	1913	—	—	堅	1括	三重郡大矢知村垂坂

943	工場規程(製糸工場の規程・調査表など)	(明治33年ころ)	1900	美富持(製糸所)	—	豎	1	
944	地所売渡証(山2町。戸長代理筆生 後藤政治郎の奥書あり)	明治16年4月30日	1883	朝明郡垂坂村 売渡人 池田方経(印)、証人 伊東十治郎(印)	同村 寺村総中殿	状	1	「証書壱通 一村持」と書いた包紙入り
945-1	(村社立阪神社の境内編入許可書)	明治37年3月4日	1904	内務大臣子爵芳川顕正(印)、農商務大臣男爵清浦奎吾(印)	—	状	1	「大字垂阪字新見千九百壱拾六番地 山林保安林宮境外地 但シ登記済 証書壱通」と書いた包紙入り
945-2	土地所有権移転登記嘱託書(立阪神社の境内地。四日市区裁判所の登記済奥書あり。大阪大林区署の登記済証を添付)	明治38年8月9日	1905	農商務大臣男爵清浦奎吾代理 大阪大林区署長 大林区技師 有田正盛(印)	四日市区裁判所御中	綴	1	
945-3	領収証書(林野払下げ代受取)	明治38年6月26日	1905	大阪大林区署主任収入官吏 林務属 大橋季業(印)	三重郡大矢知村 佐藤徳守外三人	他	1	
946	地所質入証書(畑2反4畝余で10円借用)	明治18年1月	1885	借主 田村性延(印)、加判 五島小三郎(印)ほか3名 印はすべて抹消	当村 西脇彦三郎殿	状	1	
947-1	断書(村方で異論のある観音寺住職田村性延への帰依を止め、慎むこと)	明治20年10月21日	1887	朝明郡垂坂村 伊藤喜八(印)・伊藤喜平(印)ほか1名	当村総代組長御中	状	1	「断書 伊藤喜八」と書いた包紙入り
947-2	約定書(観音寺住職田村性延と村内檀信徒の、積立金300円をめぐる処置について)	明治20年7月21日	1887	住職 田村性延、壇徒総代 五郎宗助、寺世話掛 伊藤藤蔵、信徒総代 伊藤卯右衛門ほか5名	戸長 堀勘兵衛殿、東富田村駐在所結 石田健造殿	状	2	1通は下書き
947-3	出頭御届(観音寺住職田村性延の不正を訴えるため)	明治21年2月26日	1888	朝明郡垂坂村 五島宗三郎・後藤卯助・伊藤善治郎	四日市警察署御中	状	1	
948	借用証書(新規建物入費払い金として30円)	明治18年4月	1885	観音寺住職 借主 田村性延(印)、世話人 服部弥輔(印)ほか2名、信徒総代 池田方経(印)	朝明郡垂坂村 議員・組頭御中	状	1	「証券 壱通 議員并組頭中え差入書 観音寺住職 田村性延」と書いた包紙入り
949	元三大師資本金之内 借入金証券(退出のとき「涙金」としてうけた100円の恩償金の借用証書雛形)	明治20年8月27日	1887	三重郡日永村 円楽寺住職 垂坂性金、保証人	朝明郡垂坂村 観音寺世話方御衆中	状	1	端裏「五島」
950	約定証書(抵当地を分裂・入れ換えて抵当の約定をするにあたり)	明治24年9月12日	1891	大矢知村大字垂坂 西脇彦三郎(印)	観音寺取締人御中	状	1	
951	御下ヶ願書(境界争論が示談成立したため、係争中の伐木停止願書の差下げ)	明治17年8月6日	1884	垂坂村 願下主 伊藤治左衛門(印)、受主 伊藤善治郎(印)	垂坂村 山林監守人 五島小三郎殿	状	1	

952	地所売渡証券(山林と村宅地を村会議決により垂坂共有地に売る)	明治23年10月7日	1890	朝明郡大矢知村大字垂坂 後藤栄吉(印)	大矢知村大字垂坂 村長 丹波誠一郎殿	状	1	
953	証(50円の仮証文を受け取ったが示談成立につき引替えの約定書)	明治18年9月15日	1885	館亀太郎(印)	垂坂村 総代御中	状	1	「小杉村 館平三郎ヨリ戻り証文書 同亀太郎ヨリ約定書書」と書いた包紙入り
954-1	記(郡役所から会社までの荷物輸送依頼書)	明治27年9月10日	1894	大矢知村役場	垂坂区長御中	状	1	
954-2	(垂坂分の株数メモ)	—	—	—	—	他	1	
954-3	宮境外地払下ノ金受取書 大字垂坂(包紙のみ)	—	—	—	—	他	1	朱書「参拾壹号」
954-4	速達社員約定証 森田多左衛門・池谷八百作(包紙のみ)	—	—	—	—	他	1	朱書「区外十五号」
954-5	山林壹反貳畝廿六歩・郡村宅地三畝三歩 証券書通 後藤栄吉 買得金拾貳円也(包紙のみ)	—	—	—	—	他	1	朱書「区外十六号」
955-1	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 館 未太郎殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-2	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 伊 藤久五郎殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-3	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署	三重郡大矢知村垂坂 後 藤宗吉殿	他	1括	封筒入り
955-4	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 後 藤儀助殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-5	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署	三重郡大矢知村垂坂 後 藤利三郎殿	他	1括	封筒入り
955-6	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署	三重郡大矢知村垂坂 伊 藤辰次郎殿	他	1括	封筒入り
955-7	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 若 田留吉殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-8	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 伊 藤悦男殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-9	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 後 藤宗三殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-10	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署	三重郡大矢知村垂坂 後 藤新三郎殿	他	1括	封筒入り
955-11	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 後 藤元治郎殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-12	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 伊 藤良三殿	他	1括	通知と納付書。封筒入り
955-13	(営業取引高税の納付通知)	—	—	四日市税務署取引高税係	三重郡大矢知村垂坂 伊 藤庄平殿	他	1括	通知と納付書
956-1	(貸付金500円の利息払い込み確認書)	昭和8年6月9日	1933	有限責任大矢知信用購買販売組 合 組合理事 荻原房吉(印)	組員 後藤信一郎様	状	1	封筒入り

956-2	(封筒のみ)	—	—	三重県三重郡大矢知村垂坂 五島製糸株式会社	四日市合同運送株式会社御中	他	1	
956-3	(封筒のみ。「御調印至急御取纏メ回送被下度候也」)	—	—	三重県三重郡大矢知村役場	区長 後藤信一郎殿	他	1	
957-1	観音寺講券状(観音寺の維持保存のための講の通帳)	昭和2年～	1927	三重郡大矢知村垂坂 観音寺住職 講元 吉田性達(印)ほか1名、世話係 観音寺世話係中・観音寺和讃講中	伊藤益三郎殿	他	1	
957-2	(元三大師誕生会・秋期会式・秋期永代詞会の修行袋)	—	—	元三大師霊跡 垂坂山 観音寺	—	他	1	奉納金の袋か
958	五島製糸場製糸工女養成規程(印刷)	(大正)	—	—	—	他	2	同じもの2枚
959	(議会解散、帰国の報告プリント)	明治30年12月28日	1897	木村誓太郎	第三撰挙区内諸君	他	1	
960	(日清戦争戦地より無事を伝える礼状のコピー)	明治28年2月15日	1895	清国征軍野戦第三師団 歩兵第六聯隊第四中隊 後藤条吉	垂坂区長初議員組頭御中様	状	1	封筒とも、本文コピーは同じもの2枚あり
961	物品税 第一種・第二種 物品移出・小売(課税標準)申告書	昭和27年12月～	1952	—	四日市税務署管内 三重郡大矢知村垂坂 伊藤良三	横	1	切り取って使用するための帳面。1枚のみ使用
962-1	(郷土研究35年記念帖作成のための揮毫依頼書)	昭和17年	1942	三重県津市洪見 鈴木敏雄(印)	—	状	1	作成者雅号は三重軒・楽山・美廼舎・雲衣・石痴。考古学・地質鉱物学・歴史・絵画・歌俳
962-2	「糶(?)」	昭和17年12月	1942	米洗川卿 個(印「悟物」)	—	他	1	依頼状が添付してある
962-3	「糶(?)」	昭和17年12月	1942	米洗川卿 個(印「悟物」)	—	他	3	下書き
962-4	祝楽山考古三十五年(七言絶句)	(昭和17年)	1942	酔糶	—	他	1	
962-5	世渡りは竹の如くに行きつまずも(竹図)	(昭和17年)	1942	国	—	他	1	
963	後藤春松製綿所商標(台紙貼付)	—	—	—	—	状	1	後藤信一郎用箋に貼付
964-1	後藤信一郎家 戸籍謄本(綴じ合わせ)	(昭和7年～)	1932	—	—	縦	1	
964-2	(伊藤家歴代メモ)	—	—	—	—	綴	1	964-1にはさみこみ
964-3	火葬認許証(伊東のぶ子の火葬)	明治42年7月16日	1909	大矢知村長 辻禄在(印)	三重県三重郡大矢知村大字垂坂 戸主農 伊東林平孫	状	1	964-1にはさみこみ
965	三重郡大矢知村字垂坂地区 県営暗渠排水事業施行地現形並予定図(ブルーコピー)	—	—	—	—	他	1	1/600
966	垂坂大矢知間改修道路図面入(袋書。平面図1枚・縦断図1枚・横断図1綴入り)	—	—	—	—	袋	1	大矢知村役場納税袋に入る
967	(大矢知村農会報綴り)	昭和9年	1934	大矢知村農会	—	縦	1	ホッチキスとじ。発行の辞、育雛・稲作肥料など

968-1	(皇国精神顕揚史蹟巡歴講習会の礼状)	昭和15年8月26日	1942	三重県聯合青年団長	大矢知村 後藤信一郎殿	状	1	封筒入り
968-2	(糶摺り・野草食についての朝日新聞記事抜き書き)	昭和19年9月8日	1944	—	—	状	1	
969	(垂坂村の糶に関する古文書集。印刷)	—	—	—	—	状	2	明暦～天保のもの。後藤信一郎
970	垂坂山国宝元三大師由来(印刷)	—	—	垂坂山観音寺和讃講	—	状	2	同じもの2枚
971	開墾届(大矢知村大字垂坂村の開墾地届。付図とも)	明治37年2月	1904	三重郡大矢知村大字垂坂 後藤力松(印)ほか7名	四日市税務署長吉川新太郎殿	縦	1	
972	江州廿五日講・勢州山科講 分担修繕契約書 附図面(山科別院修繕箇所の手配につき約定書控。山科別院輪番 桃園専心の奥書あり)	大正4年10月14日	1915	山科別院勘定 江州廿五日講 中村平左衛門ほか6名、勢州山科講 森甚作ほか12名	—	縦	1	
973	史跡名勝候保地 米洗川(三重県史蹟名勝天然記念物指定申請書。付図・由来書など添付)	昭和12年9月	1937	三重郡大矢知村大字垂坂 区長 管理者 後藤駒次郎	三重県知事安藤狂四郎殿	縦	1	表紙には「迹川舎主」と記名
974	売薬書類(仕入先・売薬届・薬品売薬同業組合定款・営業税納付書などの綴)	昭和8年～	1933	服部甲子郎	—	綴	1	昭和10年に廃業
975	土地 分筆・合筆・変換・開墾 其他届控	大正9年2月～	1920	後藤信一郎	—	綴	1	
976	重要書類(五島製糸株式会社関係の借用書・差押通知・約束手形などの綴)	(昭和8年～同10年)	1933 ～ 1935	—	—	綴	1	昭和9年に倒産
977	山科講本部経費受渡之控(山科講経費不足分渡し帳)	大正3年	1914	三重郡内 朝明部同講	—	半横	1	
978	山科講諸取換(立替金の控え帳)	大正3年8月15日	1914	後藤長兵衛	—	半横	1	
979	山科講御消息披露二付諸費及賽銭控(老師瀧川寛了を迎えて朝明部で8月30日から4日間開催)	大正4年8月	1915	会所 浄泉坊・浄恩寺	—	横	1	小向の浄泉坊、鶴の浄恩寺で開催。そののち3郡を巡回
980	山科小屋器具及諸道具引渡目録(内仏・中宗堂・御殿・御座敷・小屋仏飯所の仏具・器材一式)	大正4年10月15日	1915	員弁郡梅戸井村 受取人 小川佐十郎、三重郡羽津村 渡シ人 山本小三郎、立会人 員弁郡梅戸井村 小川学ほか3名	—	縦	1	後藤長兵衛控。後藤は立会人の一人 山科別院のことか？
981	大正四年一月廿六日大字下ノ宮説友所ニ於テ旧朝明郡山科講集会出席人名	大正4年1月	1915	—	—	状	1	
982	(山科別院修繕のため江州・勢州両講分担修繕契約書の調印依頼書)	大正4年12月11日	1915	山科講本部	小川学殿、出口沢吾殿、林邁殿、藤田平太郎殿	状	1	
983	(朝明組山科講の収支表)	(大正3年)	1914	朝明組山科講	—	状	1	
984	領収書及負担書(山科講関係)	大正4年10月	1915	朝明部山科講	—	綴	1	大正8年まで

985-1	大正四年三月十四日山科経費決算二付当小屋守服部直七死亡ニ相成、本人取扱ノ帳簿不分明ニテ違算有之、依テ再調算出スル左之通り	大正4年3月14日	1915	—	—	綴	1	5点を綴じ合わせ
985-2	山科ニテ甚作取替(リスト)	—	—	—	—	状	1	
985-3	契約証(山科別院の収入・支出管理に伊勢講中が参加するにあたり)	大正4年3月	1915	江州伊勢勘定員	—	豎	1	
985-4	(決算済後の重複分・入費分のメモ)	(大正4年)	1915	—	—	状	1	
985-5	大正四年三月十四日決算後ニ出来ル経費	—	—	—	—	状	1	
986	安置之証(伊勢山科講に下付された明如上人筆「六字尊号」の預け証下書)	大正3年10月	1914	伊勢山科講 本部	員弁郡中里村大字日内中村徳兵衛殿	状	1	毎年の仏飯米寄進の懇志に応じて
987	書添(山科別院への取持の懇志に応じて鏡如上人筆「六字尊号」の御附与にあたり)	大正4年3月15日	1915	伊勢山科講本部	桑名郡桑部村 大字桑部御中	状	1	
988	添書(青年会山科講開講のため鏡如上人筆「六字尊号」の願下にあたり)	大正4年3月15日	1915	伊勢山科講本部	桑名郡大島 青年会御中	状	1	
989	書添(青年会山科講開講のため蓮如上人真影下付)	大正4年3月	1915	伊勢山科講本部	桑名郡大島 青年会御中	状	1	
990-1	記(天蓋釣手鉄代金の請求書)	4月10日	—	京都市醒ヶ井通魚棚北入八幡屋 井沢治助商店	山科御坊御中様	状	1	
990-2	記(人天蓋・釣手鉄代金の領収書)	—	—	京都市醒ヶ井通魚棚北入八幡屋 井沢治助商店	桃園専心様	状	1	
990-3	請求書(人天蓋・外箱代金の請求書)	大正5年4月8日	1916	京都市醒ヶ井通魚棚北入八幡屋 井沢治助商店	山科御別院御中様	状	1	
990-4	(新調した天蓋の取次人・寄附人・輪番の人名覚)	(大正5年)	1916	—	—	状	1	
991-1	大正三年十月三十一日決算 朝明郡負担分(領収書)	(大正3年)	1914	山科講本部	—	折	1	
991-2	(大矢知・垂坂などの分担金などのリスト)	(大正3年)	1914	—	—	折	1	
992	山科別院永代経志金帳(郡別リスト)	大正6年5月3日取調	1917	立会人 森甚作ほか9名	—	綴	1	
993	実如上人・円如上人 四百回御忌懇志記簿(記名部分欠)	大正7年2月	1918	本派本願寺山科別院 輪番 桃園専心(印)ほか1名	伊勢山科講員御中、並ニ外各寺御門徒中 垂坂同行中	綴	1	
994	(大遠忌懇志金50銭の受領証)	大正7年4月26日	1918	本派本願寺名古屋別院 大御遠忌事務所(印)	後藤長兵衛殿	状	1	
995	根倉 綴(多気郡下御糸村根倉の稚蚕共同飼育場に関する補助規定・掃立届などの綴)	(明治40年)	1907	後藤狂蚕	—	綴	1	後藤長兵衛が養蚕教師
996	保有米調(小作米取得量届・政府買上麦割当など綴)	昭和16年～	1941	—	—	綴	1	(終戦頃まで)



997	(垂坂村内の煙草作村届の綴。三重県知事あて)	(明治21年)	1888	—	—	綴	1	
998	鷗道 大道修繕経費控(道路補修費)	明治44年12月	1911	大字垂坂	—	縦	1	
999	大道修繕経費受領証(領収書など綴)	大正元年度	1912	大字垂坂	—	縦	1	
1000	道修理役(道ごとの担当者氏名リスト)	昭和7年10月	1932	—	—	横	1	
1001	(連帯保証人に掛戻し金滞納を催促するとの通知)	昭和11年2月5日	1936	垂坂道路講帳元 伊藤善次(印)	西脇時三郎殿	状	1	
1002	垂坂排水工事記(材料額調書・青写真など綴)	昭和19年2月～	1944	迹川舎主	—	綴	1	
1003	三重県歴史館解説(四日市大博覧会パビリオン解説。印刷)	昭和11年	1936	四日市市主催 国産振興 四日市大博覧会	—	他	1	3月25日～5月13日会期
1004	糶 慈光 落穂集(垂坂麴の由来・文芸など綴)	—	—	迹川舎	—	縦	1	
1005	(垂坂麴の由来・文書など綴)	—	—	—	—	縦	1	
1006	大矢知村志資集目次(古文書・文献リスト)	—	—	迹川舎主	—	縦	1	
1007-1	(垂坂麴の由来・古文書写など)	—	—	—	—	状	一括	
1007-2	皇大神宮御贄麴献納運搬箱(仕様書図面)	—	—	—	—	他	1	
1008	御遷座供奉役割	大正9年10月17日	1920	—	—	状	1	
1009	延喜式ノ内 立坂神社考(ガリ版)	—	—	迹川舎	—	縦	1	
1010	延喜式内立坂神社寄附帳(燈籠、金銭など)	明治35年9月～	1902	垂坂区	—	縦	1	
1011-1	神社建物并立木入札控	大正8年11月3日	1919	大字垂坂区	—	横	1	3件綴じ合わせ
1011-2	(枯損木、石段修繕図面など)	(大正12～)	1924	—	—	綴	1	
1011-3	昭和四年度後期 請求書(神社費)	昭和4年12月18日	1929	青年団神祇部会計係 後藤憲吉	—	縦	1	
1012	幟竿及同納庫寄附控	大正11年3月～	1922	垂坂区	—	横	1	
1013	神社書類	—	—	—	—	綴	1	
1013-1	三重県神社関係者大会協議事項(印刷)	昭和11年5月7日	1936	三重県神職会	—	洋	1	4点を綴じ合わせ
1013-2	神社功労者事績書(印刷)	—	—	—	—	洋	1	

1013-3	新撰 諸祭神名総覧(内容見本)	—	—	—	—	洋	1	+添と概しロイノヒ
1013-4	神社祭祀に関する心得(印刷)	昭和8年8月	1933	三重郡神職支会	—	洋	1	
1014	立坂神社新築用領収証綴	大正9年9月24日～	1920	—	—	綴	1	督扱
1015	立坂神社新築用領収証綴	(大正8年～)	1919	—	—	綴	1	伊藤信三扱
1016	(整理の痕跡である表紙・袋等)	—	—	—	—	他	1括	
1017-1	暴動之節手続書 (影写。伊勢暴動の報告書)	明治10年1月14日	1877	尾上町組頭 野島茂、戸長 橋口保大	三重県令岩村定高殿	豎	1	ほぼ同内容だが、朱筆と末尾部分が異なる
1017-2	暴動之節手続書 二度め (影写。伊勢暴動の報告書)	—	—	—	—	豎	1	
1018	両宮按内記(コピー)	—	—	勢陽講古堂梓	—			78枚 昭和51年に早稲田大学で井阪篤子がコピー
1019-1	神領考証 二 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			原本は神宮文庫所蔵史料
1019-2	神領考証 三 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			
1019-3	神領考証 五 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			
1019-4	神領考証 六 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			
1019-5	神領考証 九 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			
1019-6	神領考証 十 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			
1019-7	神領考証 十二 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			
1019-8	神領考証 十三 拾三冊之内(ブルーコピー)	—	—	—	—			
1020	山辺御井之碑(拓本)	慶応3年長月	1867	神戸城主 藤原忠貫識	—	軸	1	78.8×154.5(本紙)
1021	(巻布)沖安海先醒長歌 「阿豆左遊美… 反歌 不気ぬと母…」	—	—	澳安海(沖安海)	—	軸	1	貼紙「明治三十九年八月十二日 安海翁五十週年追悼遺墨展覧会 出品之章 伊勢国白子悟眞寺(印)」 133.0×39.0 木箱入り
1022	(巻布)安海試筆歌 保存楽山文庫 寺村蔵 「試筆 とりそむる筆のすさみに…」	—	—	沖安海	—	軸	1	113.0×28.8 紙箱入り 安海の人物紹介コピーあり
1023	「秋扇 捨られし扇を見れば秋たけて…(短歌)」	—	—	安海(沖安海)	—	短冊	1	貼紙「明治三十九年八月十二日 安海翁五十週年追悼遺墨展覧会 出品之章 伊勢国白子悟眞寺(印)」神戸 伊藤宗九郎出品 タトウ入り
1024	「寒雨 大日枝やをひおくの雪をさゆる夜の…(短歌)」	—	—	安海(沖安海)	—	短冊	1	裏面貼紙「神戸 伊藤宗九郎出品」

1025	「閑中郭公 なすわさになかき日うめる…(短歌)」	—	—	安海(沖安海)	—	短冊	1	
1026	「將軍 明らけき御代のまもりと大空に…(短歌)」	—	—	安海(沖安海)	—	短冊	1	
1027	「夜郭公 さとわくるうらみおはしと郭公…(短歌)」	—	—	安海(沖安海)	—	短冊	1	裏面墨書「白子 沖庄蔵」
1028	「翫茶 樽の尾の清きなかれをとめてこそ…(短歌)」	—	—	安海(沖安海)	—	短冊	1	
1029	「岡春曙 見るめさへとしてな□□のをかしみも…(短歌)」	—	—	安海(沖安海)	—	短冊	1	タトウ入り 状態悪し
1030	(軸背)足代弘訓和歌 山吹 三松園三斎 「よのなかは八重山吹の花心…(短歌)」	—	—	弘訓(足代弘訓)	—	軸	1	107.0×27.5
1031	「くれなゐのこそめの柿をみてもしれ…(短歌)」	—	—	弘訓(足代弘訓)	—	短冊	1	タトウ入り
1032	「月もらぬこのしたやみの水影も…(短歌)」	—	—	弘訓(足代弘訓)	—	短冊	1	
1033	「よのなかは八重山吹の花心…(短歌)」	—	—	弘訓(足代弘訓)	—	短冊	1	1030と同じ歌
1034	「女の山吹の花をもちてをとこと物いひたる所 ことの葉は八重花さけと山吹の…」	—	—	弘訓(足代弘訓)	—	短冊	1	裏面墨書「伊勢 故網代権太夫」
1035	「松雪 降まゝにあらしも雪に埋もれて…(短歌)」	—	—	長恒(磯部長恒)	—	短冊	1	裏面貼紙「長恒 磯部宇右衛門」 タトウ入り